DESCENTE

生存のすべてを託す、一球のシュートもある。

スポーツマンたちは激しい練習に耐える。それは満足のいくプレーを行うためである。
自らが描いたイメージを、自らの肉体によって実現することが、
彼らの目標であり、彼らのよろこびでもある。
それが無為な行為だとしたら、ロマンと呼んでいいかも知れない。
それこそが、スポーツマンたちの生活そのものであるから。
「アディダス」ハンドボールウェアは、最新の機能で彼らのロマンに応えます。

第4回日本リーグオールスター戦

男子・西軍，女子・東軍が制す

第4回日本リーグオールスター戦は、1月13日、東京・駒沢体育館に東西の日本リーグスター選手を集めて開催された。試合の方は、男子は西軍が立ち上がりから終始優勢にに展開して逃げ切り、女子は中盤もつれたものの東軍が初の勝利をあげた。通算成績は、男女とも西軍の3勝1敗となった。

男子

西軍 25（14－9、11－11）20 東軍

全日本総合で6連覇を達成した湧永製薬を中心に日新製鋼、本田技研鈴鹿で構成した西軍にリーグ優勝の大同特殊鋼、大崎電気、三陽商会で構成した東軍が対決。

試合の流れは、前半開始早々西山のロングで先行した西軍が終始優勢に展開、先手先手と攻撃をしかけた。また、前半中ば過ぎから登場した西軍の山本が、余裕あるプレーから得点、7分間で4得点をあげる活躍を見せて東軍を突き放した。

東軍も後半に入って、田口のロングなどで反撃を試みるが、なかなか連続得点をあげられず、点差をつめることができない。一方、西軍は志賀が珍しくロングを決めるなど各選手がのびのびとプレー、逃げ切った。

〔表彰選手〕

◎最高殊勲選手賞
山本伸二（湧永製薬）

◎敢闘賞
蒲生晴明（大同特殊鋼）
大畑孝広（本田技研鈴鹿）

◎ベストGK賞
上村幸彦（大同特殊鋼）

◎最優秀監督賞
津川　昭（西軍・湧永製薬）

得	〔西　軍〕		〔東　軍〕	得
0	（本田）大畑　孝広	GK	上村　幸彦（大同）	0
0	（日新）西川　浩以		岡部　　大（大崎）	0
0	（湧永）井藤　英忠		蒲生　晴明（大同）	3
2	（湧永）穂積　豊彦	FP	高村　誠一（大同）	0
5	（湧永）山本　伸二		田口　勝利（大同）	4
2	（湧永）池ノ上孝司		中本　満明（大同）	1
2	（湧永）生駒　靖夫	（審・清岡 水本）	関　　健三（三陽）	1
2	（本田）佐々木信男		市川　　修（大同）	3
3	（湧永）志賀　良弘		田中　保彦（大同）	0
2	（本田）田野　好晃		柳川　　実（大同）	2
0	（本田）三本松俊雄		東江　正作（大崎）	0
2	（日新）西山　　清		首藤　信一（大崎）	1
2	（日新）藤井　　泉		砂川　正雄（三陽）	2
2	（本田）立木　浩三		山本　興道（大崎）	0
1	（日新）甲斐　幸平		長野　　透（大崎）	3
25	（2）	PT	（2）	20

女子

東軍 26（13－12、13－10）22 西軍

東軍は大崎電気、日立栃木、日本ビクター、東京重機から、西軍は立石電機、大和銀行、ジャスコ、ブラザー工業からの選手で構成。

試合は、前半大崎電気の選手を中心にしてスタートした東軍が、いきなり10分間に5点を連取、優位に立った。

しかし、前半の残り10分を切って大崎の李相玉あたりをベンチに引っこめたあたりからじりじりと西軍が反撃、前半を終わってみたら13－12と東軍僅か1点のリード。

後半に入って立ち上がり2点を東軍が連取したものの、5分過ぎから西軍が反撃、10分間に7点を連取して19－15と逆転。しかし、東軍は再び大崎主力のメンバーに切り替えると6点を連取、再逆転してそのまま逃げ切った。

〔表彰選手〕

◎最高殊勲選手賞
李　相玉（大崎電気）

◎敢闘賞
李　京姫（大崎電気）

◎ベストGK賞
荒木晴美（立石電機）
葛生豊子（日立栃木）

◎最優秀監督賞
谷口俊郎（東軍・大崎電気）

得	〔東　軍〕		〔西　軍〕	得
0	（日ビ）渡辺　利枝	GK	荒木　晴美（立石）	0
0	（日立）葛生　豊子		木村貴代美（ジャ）	0
6	（大崎）李　　相玉		亀園　末栄（立石）	4
7	（大崎）李　　京姫		是枝　澄代（立石）	3
0	（重機）沖山　元子	FP	増永真奈美（ブエ）	1
3	（大崎）石井美沙子		竹内　保子（ブエ）	1
2	（大崎）徳渕　妙子		岩村　英子（立石）	5
5	（日立）前田　重子		高橋知曜美（大和）	0
0	（日ビ）中根　裕子		馬渡　友子（大和）	0
0	（大崎）時實　良枝		寺沢　路子（ジャ）	1
0	（日立）山岸　和子		石田　裕子（ジャ）	0
0	（日ビ）長田　友子		鷲野千代子（ジャ）	1
2	（日ビ）武藤夕起子		江口由美子（立石）	3
1	（日ビ）下條千恵子		秋成　圭子（大和）	3
0	（重機）市川　千恵		若水真由美（大和）	0
26	（4）	PT	（3）	22

第36回 全日本総合選手権大会

湧永 輝く6年連続の制覇 男子

日立栃木 初優勝を飾る 女子

第36回全日本総合選手権大会は12月18日から22日までの5日間、東京駒沢体育館（18、19日は駒沢屋内球技場も併用）で開催された。成績の方は、男子は湧永製薬がこの大会波に乗って快進撃を続けてきた大崎電気の挑戦を退け、6年連続8回目の優勝を遂げ、連勝記録、優勝回数ともに大会記録を更新した。

女子の方は、日立栃木が若さの力で快調に勝ち進み、大崎電気、立石電機といった日本リーグの上位チームを連破して見事感激の初優勝を飾った。

★男子

▼1回戦

桜門ク 38（16—15 13—14 4—1 5—2）32 日鉄建材

○…立ち上がりより互いに相手のミスに乗じて得点。15分を経過した頃より若い日鉄建材は桜門クの巧みなポストプレーにほんろうされリードを許すが、上山、山口の長身からのミドルシュートで追い上げ、桜門クの1点リードで前半を終了。

後半、いく分動きの止まった桜門クに日鉄建材は完全なるマイペースで、20分には5点リードと楽勝ムードだったが、桜門クは巧みな攻撃と日鉄建材のミスを拾って2分に同点に追いつき、延長に持ち込んで勝利をつかんだ。

	〔日鉄〕	得	〔桜門ク〕	得
GK	蓑輪	0	萩原	0
	川上	0	丸山	0
FP	若木	2	山口	9
	清原	0	高梨	4
	池辺	0	宮沢	6
	古川	0	井口	0
	外山	6	新井田	2
	山口	12	高野	1
	杉本	3	安福	0
	霜村	2	金岡	9
	中山	0	藤村	5
	上山	7	伊藤	2
PT	(4)	32	(3)	38

〔審・佐分、大塚〕

大体大 37（17—5 20—6）11 岩国ク

○…開始直後、両チームとも少し体が動いていなかったが、だんだんと動きがよくなり、大体大のスピードが岩国クを圧倒した。特に、速攻からのシュートとポストプレーによって一方的なゲーム展開となった。

	〔岩国ク〕	得	〔大体大〕	得
GK	中元	0	山下	0
			徐	0
FP	旗手	0	中浦	1
	善本	1	佐久間	6
	清水	2	坂本	5
	島里	1	古賀	4
	大江	2	上原	1
	中村	0	岡田	4
	植木	5	斉喜	0
	西本	0	山村	7
			大塚	3
			楠本	5
PT	(0)	11	(2)	37

〔審・千野、三枝〕

三景 26（10—10 16—9）19 自衛隊県

○…立ち上がり、三景・郡司のステップシュートが決まり、一方的になるかに見えたが、呉のサイドプレーが決まって逆に呉がリード。その後、相方ともにミスが続き、一進一退のゲーム展開からミスの少ない呉がリードを広げたが、三景も速攻が出だし、同点で前半を終了。後半、立ち上がりから三景が速攻で得点を重ね、呉を突き放した。

	〔自衛隊〕	得	〔三景〕	得
GK	一二	0	中村	0
	須尭	0	野田	0
FP	岩山	1	田岡	6
	塩見	1	藤山	0
	和田	4	白倉	2
	西川	1	太田	3
	岡田	1	大谷	0
	池田	6	近藤	7
	利光	0	峰尾	0
	利光	5	高橋	1
			郡司	6
			阿部	1
PT	(2)	(19)	(2)	26

〔審・東、中本〕

わかくさク 32（19—10 13—17）27 セブンスターズ

○…セブンスターズは、佐藤、新実、柴田の元オリンピック・プレーヤーを擁しながら、立ち上りシュートミスからわかくさクに続けて速攻を許し、また、佐藤の巧みなパス、シュートで加点はするもののわかくさクの玉村、金丸に鋭いロングシュートを決められ、前半で大きく水をあけられた。

後半に入り動きの止まったわかくさディフェンスのスキをつき必死に追い上げたセブンスターズだが、前半の点差は大きく、1回戦をものにできなかった。

	〔セブン〕	得	〔わかくさ〕	得
GK	柴田	0	佐伯	0
			小野	0
FP	西田	2	佐川	0
	佐藤	8	阪本	0
	喜井	4	福西	0
	豊岡	6	小林	1
	清水	0	玉村	7
	矢野	4	金丸	13
	松本	2	村田	2
	米村	0	菅沼	4
	谷本	0	田中	5
	高橋	1		
PT	(1)	27	(0)	32

〔審・岡本、清水〕

あかぎク 24（9—13 15—6）19 筑波大

	〔筑波大〕	得	〔あかぎ〕	得
GK	岡本	0	譲原	0
	狩野	0	野口	0
FP	山中	2	斉藤	1
	八田	3	今井	3
	花田	0	長谷川	0
	高橋	5	岡田	5
	田中	0	栗田	5
	渡辺	1	石井	0
	会田	0	寺山	1
	野田	4	三浦	3
	山下	2	小金沢	0
	永松	2	永井	7
PT	(1)	19	(1)	24

〔審・福田、松尾〕

○…ベテランを集めたあかぎク対若くて生きのいい筑波大の一戦は、前半、あかぎがスローなテンポでポストからシュートを狙えば筑波大は速い動きで走りまくり、終始リードして13—9で前半終了。

後半に入るや、筑波大のコンビプレーが乱れてミスが続出、また、あかぎクのGKの好守にあってすっかり攻撃が単純になってし

まった。その気持のあせりを巧いボール回しで着々と得点を重ね、24—19で筑波大をふり切った。筑波大の若さが空回りしたゲームであった。

京都教員B 33（17—11 / 16—11）22 中村荷役

〔中村〕	得
GK 飯塚	0
GK 末次	0
FP 飯田	4
FP 坂口	3
FP 西窪	1
FP 大木	3
FP 下成	5
FP 戸辻	0
FP 三尾	4
FP 窪田	0
FP 吉田	1
FP 小野	1
計	22
PT	(2)

（審・井上　島崎）

〔京都〕	得
GK 咲本	0
FP 酒井	6
FP 奥西	0
FP 藤本	4
FP 福田	4
FP 西村	11
FP 杉山	3
FP 越智	0
FP 池辺	4
FP 小山	1
計	33
PT	(6)

○…京都教員Bの出足好調、サイドからのシュートをPTに、また、GKの好守を速攻につなぎ加点、前半20分では5点差をつけペースを握り、余裕あるプレーを随所に見せた。一方、中村荷役は、コンビプレーに今一つ苦しみ、単発シュートが相手GKの好守になるなどブレーキ続きで前半を終った。

後半も攻めに冴えを見せて伸び伸びとプレーする京都に対し、ラフプレーで退場、PTなどで自ら墓穴を掘る中村荷役、一時は12点差を許す乱戦ぶりで完敗。

京都教員の要所での好守が明暗を分けた。

中央大 38（18—14 / 20—10）24 本田技研熊本

〔熊本〕	得
GK 岩木	0
GK 森	0
FP 田上	0
FP 斉所	3
FP 入江	0
FP 松永	7
FP 岡崎	0
FP 佐伯	6
FP 中村	5
FP 鯖江	0
FP 長野	2
FP 片山	1
計	24
PT	(2)

（審・上久保　北井）

〔中大〕	得
GK 宇田川	0
GK 宇田川	0
FP 清家	6
FP 小山	2
FP 松田	0
FP 小笠原	0
FP 大木	5
FP 佐藤	1
FP 相川	11
FP 安藤	0
FP 茂木	7
FP 江沢	6
計	38
PT	(0)

○…中大は本田技研熊本のディフェンスの甘さをついてポスト、カットインで攻撃し加点する。一方、本田はミスが目立ちリズムに乗れず、前半10点差で終了。後半に入っても中大は速攻、ポストなどで加点。

これに対し本田も速攻、ロング、ポストなどで攻撃、健闘したが、前半の失点があまりにも多過ぎた。

国士館大 41（18—14 / 13—17 / 3—2 / 2—3 / 2—3 / 3—2 / PTC 6—5）41 トヨタ自動車

〔トヨタ〕	得
GK 玉津	0
GK 中西	0
FP 城ケ原	2
FP 小山	7
FP 高木	0
FP 堀江	0
FP 相本	12
FP 川田	14
FP 香井	5
FP 山内	0
FP 久本	0
FP 松永	1
計	41
PT	(7)

（審・後藤　島田）

〔国士大〕	得
GK 渡辺	0
GK 大崎	0
FP 内藤	5
FP 吉田	2
FP 有松	0
FP 綿引	10
FP 鈴木	13
FP 横浜	4
FP 細津	4
FP 切明	0
FP 大谷	3
FP 斉藤	0
計	41
PT	(3)

○…若さあふれる国士大、上昇気運に乗るトヨタ。ある程度の接戦は予想されたが、これ程の大熱戦になるとは誰れが予想したことか。ゲーム開始早々、ミドル、速攻と快調な国士大が一方的にリード。トヨタの挽回で延長になり盛り上がる。第2延長も残り20秒まで40—40の同点。ここでトヨタ退場をついた国士大の決勝点かと見えたが、トヨタのエース・川田のノータイムミドルが決まって、結局41—41の同点で勝負はPTCに。サドンデスの結果、勝利の女神は国士大にほほえんだ。

大会史上に残る大熱戦、両チームの健闘を讃えたい。

▼2回戦

日新製鋼 25（11—13 / 14—7）20 大体大

〔大体大〕	得
GK 山下	0
GK 徐	0
FP 中浦	0
FP 佐久間	1
FP 坂本	7
FP 古賀	4
FP 上原	0
FP 岡田	0
FP 斉喜	0
FP 山村	4
FP 大塚	3
FP 楠本	1
計	20
PT	(0)

（審・岡本　清水）

〔日新〕	得
GK 西川	0
GK 森田	0
FP 徳田	3
FP 藤井	4
FP 吉見	0
FP 日野	2
FP 森	3
FP 甲斐	5
FP 一ノ瀬	0
FP 高木	1
FP 西山	6
FP 堀田	1
計	25
PT	(3)

○…日新は、5分過ぎから西山のカットイン、ミドルでペースをつかみ、スピーディな攻撃を展開したが、大体大GK徐の好守に阻まれ、得点はあまり伸びなかった。一方大体大は、速攻、サイド、ポストとロングのない攻めをコンビネーションでカバーしようとするが、日新ディフェンスを崩すに至らず14—7で前半を終る。

後半、立ち上がりから大体大GK徐の連続好キープの前にリズムを崩し攻守の動きの悪くなった日新に対し、大体大はコンビプレーが冴え、18分には17—18と1点差まで追い上げたが、この後日新に6連続得点を許し敗れ去った。

本田技研鈴鹿 40（17—11 / 23—5）16 桜門ク

〔桜門ク〕	得
GK 萩原	0
GK 丸山	0
FP 山口	1
FP 高梨	4
FP 井口	0
FP 新井田	0
FP 高野	1
FP 安福	0
FP 金岡	2
FP 藤村	7
FP 島田	0
FP 伊藤	1
計	16
PT	(2)

（審・福田　松尾）

〔鈴鹿〕	得
GK 大畑	0
GK 中尾	0
FP 佐々木	3
FP 三本松	3
FP 田野	3
FP 立木	7
FP 尾上	5
FP 玉井	0
FP 粟屋	9
FP 吉山	2
FP 田口	4
FP 坂本	4
計	40
PT	(5)

○…スピード、技術の差は大きく、本田技研のディフェンスを桜門クは敗ることができなかった。日本リーグとクラブチームの差がはっきりしたゲーム内容であった。

大崎電気 38（19—12 / 19—14）26 わかくさク

〔わかくさ〕	得
GK 佐伯	0
GK 小野	0
FP 佐川	1
FP 阪本	0
FP 福西	0
FP 小林	2
FP 玉村	10
FP 金丸	8
FP 村田	3
FP 菅沼	2
FP 田中	0
計	26
PT	(0)

（審・川島　森）

〔大崎〕	得
GK 岡部	0
GK 矢内	0
FP 斉藤	0
FP 東江	5
FP 武田	0
FP 長野	6
FP 松岡	6
FP 越迫	2
FP 首藤	8
FP 宮崎	0
FP 星野	1
FP 山本	10
計	38
PT	(1)

○…大崎・首藤、山本の両大砲の強烈なロング、一方わかくさも負けじとばかりの玉村の弾丸シュート。ゲームは予想通りの激戦となった。

ゲームは大崎のリード、それをわかくさが追いかけるという展開で前半25分には14—12の接戦となった。しかし、大きなパスワークで絶好調の大崎は、じりじりと差を広げ、粘るわかくさをふり切った。

三景 24（13—13 / 11—10）23 日大

〔日大〕	得
GK 吉田	0
GK 宮田	0
FP 武田	4
FP 嶋川	6
FP 佐藤	4
FP 阿部	1
FP 濱田	5
FP 佐藤	0
FP 岡	1
FP 堀田	2
FP 近藤	0
FP 小林	0
計	23
PT	(2)

（審・大塚　佐分）

〔三景〕	得
GK 中村	0
GK 野田	0
FP 田畑	6
FP 藤山	0
FP 白倉	1
FP 太田	4
FP 大谷	0
FP 近藤	5
FP 峰尾	0
FP 高橋	0
FP 郡司	8
計	24
PT	(0)

○…三景・郡司がたて続けに4点、ロング、ノーマークを決め三景ペースかと思われたが、8分にようやく固さのとれた日大が得点をあげ、コンビネーションもかみ合いだして23分には同点に追いつく。しかし、三景が1点をリードして前半を終了。後半、三景に退場者の出ている間に、日大はこの試合初めてリード。その後相方とも点の取り合いが続き、一転二転しながら進むが、三景が終了間際にサイドシュートを決め、そのまま逃げ切った。

三陽商会 32 〔14—13 / 18—14〕 27 京都教員 B

	〔京都〕	得
GK	咲本	0
FP	酒井	5
	奥西	0
	藤本	5
	福田	2
	西村	8
	杉山	3
	越智	0
	池辺	4
	小山	0
PT		(5)
		27

〔審・岡本 清水〕

	〔三陽〕	得
GK	大山	0
	田村	0
FP	関	7
	田口	0
	砂川	6
	山口	11
	石原	6
	実方	2
	鵜沢	0
	安藤	0
	河村	0
	吉原	0
PT		(7)
		32

○…攻守ともコンビが合わず苦しむ三陽に対し、京都は全員でよく動き得点、食い下がる。後半、京都GK退場の間に得点、三陽ペースになるかと思われたが、三陽ディフェンスが悪く最後まで突き放すことができなかった。京都教員の健闘は素晴らしかった。

大同ク 26 〔15—10 / 11—13〕 23 あかぎク

	〔あかぎ〕	得
GK	譲原	0
	野口	0
FP	越石	0
	斉藤	3
	今井	3
	岡田	6
	栗田	1
	新井	0
	寺山	2
	三浦	6
	小金沢	0
	永井	2
PT		(1)
		23

〔審・上久保 北井〕

	〔大同ク〕	得
GK	小野	0
	柳川	0
FP	藤中	5
	加藤	6
	中井	1
	松原	7
	花輪	2
	清崎	2
	伊藤	0
	更谷	3
	桑幡	0
	石川	0
PT		(2)
		26

○…昔なつかしい顔ぶれを揃えた大同ク対これもテクニックを駆使するベテラン教員のあかぎクの対戦は、予想通り巧いボール回しから技巧に豊んだトリッキーなゲーム展開となった。

前半、あかぎクは斉藤のロングを中心に健闘するが、大同クは藤中、中井、松原、花輪と五輪トリオがロング、サイド、ポストとボールを自在にパスし、確実に得点を重ね15—10で前半を終る。後半に入り、あかぎクは永井、三浦にボールを集め必死に反撃するが、大同クGK柳川の好守にあい阻まれる。しかし、勝敗の見えた後半はスピードが鈍り、前半のような興味が欠けたゲームだった。

湧永製薬 32 〔16—13 / 16—12〕 25 中央大

	〔中大〕	得
GK	宇田川	0
	宇田川	0
FP	清家	7
	小山	1
	松田	0
	小笠原	0
	大木	6
	佐藤	3
	相川	3
	安藤	0
	茂木	1
	江沢	4
PT		(2)
		25

〔審・上久保 北井〕

	〔湧永〕	得
GK	大城	0
	井藤	0
FP	池ノ上	6
	生駒	7
	穂積	4
	藤本	1
	志賀	1
	中川	3
	内田	2
	松本	3
	山本	5
	原田	0
PT		(5)
		32

○…王者・湧永に対し、中大がどこまで迫れるかがこの試合の焦点だったが、大木、清家のロングを中心にした中大の健闘でゲームは盛り上がった。

先行する湧永、追いかける中大、この展開は後半開始まで続き、2点差と予想外の接戦となった。しかし、ここで湧永は3点連取、粘る中大を突き放し、結局8点差で勝利を得た。

大同特殊鋼 32 〔15—7 / 17—11〕 18 国士館大

	〔国士大〕	得
GK	渡辺	0
	大崎	0
FP	内藤	2
	吉田	1
	有松	1
	綿引	4
	鈴木	5
	横浜	1
	細津	3
	切明	1
	大谷	0
	斉藤	0
PT		(3)
		18

〔審・福田 松尾〕

	〔大同〕	得
GK	上村	0
	秋吉	0
FP	田中	3
	田口	6
	高村	3
	柳川	2
	中本	4
	河井	1
	蒲生	4
	海江田	1
	市川	7
	佐藤	1
PT		(3)
		32

○…国士大は、前半若さのある早い動きで大同をよく攻め健闘したが、日本リーグチャンピオンの大同は、若い田口、高村、田中の活躍で得点を重ね、完全に優位に立った。

後半、大同は長身を利して高さと幅のある攻撃を展開、ワンサイドゲームになってしまった。

▼3回戦

大崎電気 19 〔10—9 / 9—9〕 18 日新製鋼

	〔日新〕	得
GK	西川	0
	森田	0
FP	泉	0
	徳田	1
	藤井	4
	吉見	1
	脇若	0
	日野	2
	森	0
	甲斐	0
	高木	1
	西山	9
PT		(2)
		18

〔審・岡本 清水〕

	〔大崎〕	得
GK	岡部	0
	矢内	0
FP	斉藤	0
	東江	3
	武田	0
	長野	5
	松岡	3
	越迫	0
	首藤	5
	宮崎	0
	星野	0
	山本	2
PT		(2)
		19

○…日新の先行で始まったゲームの流れを大崎のGKの再三にわたる好守で逆転した。日新は、大崎のツーポストを利用してのブラインドシュートに苦しみ、攻めては単発な個人技でカットイン、ロングを多用し、GKにコースを読まれた。大崎は前半終了間近にラフプレーで守りのペースを乱し、一時5点差に追い上げられる。後半1点を争う攻防に両チーム激しい闘志を見せ、持ち味を十分に発揮した好試合であった。

本田技研鈴鹿 29 〔13—10 / 16—8〕 18 三景

	〔三景〕	得
GK	中村	0
	野田	0
FP	犬飼	0
	田畑	7
	藤山	3
	白倉	0
	太田	2
	大谷	0
	近藤	0
	峰尾	0
	高橋	2
	郡司	4
PT		(0)
		18

〔審・千野 三枝〕

	〔鈴鹿〕	得
GK	大畑	0
	中尾	0
FP	佐々木	1
	三本松	5
	田野	0
	尾上	5
	玉井	4
	粟屋	8
	吉山	1
	田口	2
	坂本	2
	山田	1
PT		(0)
		29

○…先行は本田技研鈴鹿がするが、三景は郡司の2連続得点で逆転し、ペースに乗っていくかに見えたが、18分あたりよりミスが目立ち始め、本田・粟屋の4連続得点を許し、3点差で前半終了。後半開始早々、本田が得点して点差を広げ優位に立ち、その後も相手のミスに乗して速攻などにより加点する。

大同特殊鋼 23 〔11—8 / 12—8〕 16 三陽商会

○…日本リーグで知り尽くした両者は、力強い攻防の応酬で始まった。三陽はサイドの砂川、ポストの山口が好プレー、受ける大同は、田中、高村のロングシュートと中本の堅実なポストプレーで

	〔三陽〕	得
GK	田村	0
	内野	0
FP	関	1
	田口	0
	坪子	0
	砂川	6
	山口	4
	石原	0
	実方	3
	鵜沢	0
	安藤	0
	河村	2
PT		(0)
		16

〔審・東 中本〕

	〔大同〕	得
GK	上村	0
	秋吉	0
FP	田中	1
	田口	10
	高村	2
	柳川	0
	中本	5
	河井	0
	蒲生	3
	海江田	0
	市川	2
	佐藤	0
PT		(2)
		23

対抗し、前半3点のリード。

後半に入ると全員のコンビネーションが冴える大同が徐々に点差を広げ、必死に追う三陽は個々の場ではシャープなシュートで対抗するが、パスミスやイージーなシュートを拾われ、大同に速攻で加点された。気迫の充実した好ゲームであった。

湧永製薬 23 〔10—7 / 13—5〕 12 大同ク

	〔大同ク〕	得
GK	小野	0
	柳川	0
FP	藤中	2
	加藤	0
	中井	6
	松原	1
	花輪	0
	清崎	0
	伊藤	0
	更谷	2
	桑幡	1
	石川	0
PT		(0)
		12

〔審・上久保 北井〕

	〔湧永〕	得
GK	大城	0
	井藤	0
FP	池ノ上	0
	生駒	1
	穂積	6
	藤本	0
	志賀	2
	中川	3
	内田	2
	松本	3
	山本	5
	原田	1
PT		(3)
		23

○…予想通り大同クが経験を生かして粘っこく攻め、前半13分までで6—3でリード。先行きを期待させたが、結局ここまで。湧永はここから一気に7点連取、そのまま徐々に差を広げ、反撃する大同をふり切った。

▼準決勝

大崎電気19〔8―12 11―6〕18大同特殊鋼

〔大同〕		得
GK	上村	0
	秋吉	0
FP	田中	2
	田口	5
	高村	3
	柳川	0
	中本	2
	河井	0
	蒲生	4
	市川	2
	佐藤	0
	小野	0
PT	(2)	18

〔大崎〕		得
GK	岡部	0
	矢内	0
FP	斉藤	0
	東江	3
	武田	0
	長野	4
	松岡	2
	越迫	2
	首藤	6
	宮崎	0
	星野	0
	山本	2
PT	(1)	19

〔審・岡本、清水〕

○…リーグの王者・大同を相手に常に先手で攻めまくり大魚を得た大崎は、12年ぶりの決勝進出を果たした。

開始4―4までシーソーゲームかに見えたが、大崎の全員で盛んに走り、チャンスを見ての全員シュートに、首藤、長野のブラインドからのロングシュートが攻撃のリズムを効果的にした。一方大同はロングヒッターの田口、高村を早い詰めで守られ苦戦、前半の終了で5点差。後半、攻めを急ぐ大崎からミスを誘い、一気に加点し20分には同点にした大同ではあったが、逆に味方のキャッチミスが大崎の速攻につながり再び2点差、激しい追い上げで終了40秒前に同点にしたものの、大崎は再度残り23秒に得点、逃げ切った。

湧永製薬22〔14―8 8―11〕19本田技研鈴鹿

〔鈴鹿〕		得
GK	大畑	0
	中尾	0
FP	佐々木	3
	三本松	2
	田野	1
	立木	0
	尾上	2
	玉井	0
	粟屋	5
	吉山	0
	田口	3
	坂本	3
PT	(0)	19

〔湧永〕		得
GK	大城	0
	井藤	0
FP	池ノ上	3
	生駒	7
	穂積	1
	藤本	2
	志賀	1
	中川	0
	内田	0
	松本	2
	山本	6
	原田	0
PT	(2)	22

〔審・松尾、福田〕

○…田口、三本松を柱に本田は気迫のこもった攻撃を続け、湧永のラフなディフェンスに苦しみながらも絶えず先手をとり、前半11―8とリードを奮い、後半への期待を抱かせる展開。

後半に入るや、湧永は生駒のパワフルな連続シュートで得点を奪い、あっさりと逆転する。本田も必死に反撃を試みるものの、湧永の厚い壁を突き崩せず軍に下った。両チームGKの好守もあり、終盤盛り上がりを見せた好ゲームだった。

▼決勝

湧永製薬30〔18―11 12―8〕19大崎電気

〔大崎〕		得
GK	岡部	0
	矢内	0
FP	斉藤	1
	東江	6
	武田	1
	長野	2
	松岡	1
	越迫	1
	首藤	2
	宮崎	0
	星野	0
	山本	5
PT	(3)	19

〔湧永〕		得
GK	大城	0
	井藤	0
FP	池ノ上	5
	生駒	2
	穂積	8
	藤本	0
	志賀	1
	中川	0
	内田	1
	松本	8
	山本	5
	原田	0
PT	(2)	30

〔審・上久保、北井〕

○…穂積を中心にまとまりを見せる湧永に対する12年ぶりに決勝進出を果たした大崎。

一進一退の8分、まず大崎は松岡のポストシュートなどで2点差をつけたが、湧永もすぐに穂積のロングで追い上げ、23分過ぎに、再び穂積の速攻、山本のスタンディングシュートなど3連続得点をあげて、12―8と前半をリードした。

後半も湧永は攻撃の主導権を握り大崎を突き放した。大崎は、前半の好機に放つ首藤のロングシュートを、湧永のうまいディフェンスに阻まれ試合を苦しいものにした。

★女子

▼1回戦

大和銀行23〔13―9 10―9〕18ムネカタ

〔ムネ〕		得
GK	清水	0
	遠藤	0
FP	藤谷	3
	岡部	1
	吉田	0
	小林	6
	石田	3
	大河原	3
	酒井	2
	伊藤	0
	田村	0
	和知	0
PT	(2)	18

〔大和〕		得
GK	高浜	0
	松本	0
FP	秋成	6
	高橋	3
	川添	2
	若水	3
	馬渡	2
	天谷	3
	丸田	1
	西野	0
	植田	1
	上西	2
PT	(1)	23

〔審・東、中本〕

○…ムネカタの善戦で、固さのとれない大和銀行は前半16分頃まで苦戦を強いられていた。しかし、17分過ぎから、ムネカタの攻防にミスが出始め、大和銀行が辛うじてリードを保つことができた。

後半に入って、両チームともミスが多く、技術面で寂しさがあったが、地力に勝る大和銀行がようやく逃げ切った。

日立栃木24〔13―10 11―8〕18筑波大

〔筑波大〕		得
GK	樽谷	0
	杉本	0
FP	中田	3
	高木	5
	芥川	2
	吉永	0
	沼田	1
	鈴木	2
	中嶋(華)	4
	市川	1
	中嶋(恵)	0
	三宅	0
PT	(3)	18

〔日立〕		得
GK	椿谷	0
	葛生	0
FP	粟原	0
	西山	0
	清水	0
	土屋	2
	手打	4
	前田	9
	吉田	1
	山岸	4
	浅沼	0
	井沢	4
PT	(2)	24

〔審・島崎、井上〕

○…4年生の出場していない筑波大はミスが多く、前半15分間にパスミスからの速攻、チャージングからの速攻、ラインクロスからの速攻とミスで相手に得点を与えた。その後は両チームとも全く互角で前半終了。後半に入って、日立は速攻を中心に激しく攻撃し、さらに早いパス回しに筑波大学ディフェンスはふり回され、日立の楽勝で終る。

ジャスコ25〔15―11 10―10〕21日体大

○…立ち上がり日体大が山本のミドルシュートで先行し、日体大のペースで展開する。一方ジャスコは、日体大の早いプレスディフェンスを攻めあぐんでいたが、15分あたりよりパスがつながるようになり、カットインなどで得点し前半同点で終る。

	〔日体大〕	得
GK	塩畑	0
GK	広瀬	0
FP	宮田	2
FP	石原	0
FP	山本	7
FP	李	1
FP	浅沼	0
FP	小口	5
FP	吉岡	4
FP	大野	2
FP	江原	0
FP	黒沼	0
PT	(3)	21

〔審・千野 三枝〕

	〔ジャ〕	得
GK	木村	0
GK	羽深	0
FP	寺沢	6
FP	石田	1
FP	鷲野	5
FP	伊勢	2
FP	三木	7
FP	宮本	0
FP	十丸	0
FP	野村	0
FP	近藤	4
FP	服部	0
PT	(3)	25

後半に入り、7度も同点をくり返し1点を争うゲーム展開であったが、25分頃よりジャスコが相手ミスに乗じて5連続速攻で逃げ切った。日体大GK塩畑の好守が光った。

日本ビクター 37（16－5 21－5）10 北国銀行

	〔北国〕	得
GK	辻	0
GK	新宅	0
FP	中田	3
FP	荒	0
FP	山崎	0
FP	藤田	0
FP	丸山	0
FP	小玉	3
FP	松下	3
FP	林	0
FP	吉田	0
FP	中川	1
PT	(3)	10

〔審・島田 後藤〕

	〔日ビ〕	得
GK	渡辺	0
FP	志村	3
FP	中根	3
FP	門脇	3
FP	武藤	5
FP	長田	7
FP	遠藤	5
FP	鈴木	0
FP	下條	11
FP	池田	0
FP	根本	0
PT	(4)	37

○…前、後半を通じてビクターは、スピード、パス、シュートなど攻撃力があり、北国銀行もよく動くがなかなかビクターのディフェンスを抜くことができずシュートに結びつかない。ビクターは相手のパスミスを速攻へと……。また、武藤のロングシュート、PTなどで確実に得点し、大差をつけたゲームであった。

プラザー工業 33（16－16 17－5）21 武蔵野ク

	〔武蔵野〕	得
GK	高橋	0
GK	久保	0
FP	星野	2
FP	山本	4
FP	松田	3
FP	冬木	0
FP	山口	0
FP	佐藤	0
FP	市川	0
FP	太田	12
FP	森田	0
FP	安藤	0
PT	(2)	21

〔審・東 中本〕

	〔ブエ〕	得
GK	畑添	0
GK	大藪	0
FP	竹内	1
FP	赤井	9
FP	中村	5
FP	増水	0
FP	太田	5
FP	久保田	2
FP	奥山	2
FP	松下	3
FP	荒木	4
FP	黒山	2
PT	(1)	33

○…武蔵野クも最後までよく戦ったが、何としても力の差がハッキリし過ぎているゲームであった。要所要所をついて攻撃を組み立てはするが、実業団とクラブチームのいたしかたない場面だろう。

東京重機 22（11－9 11－9）18 東女体大

	〔東女体〕	得
GK	大坪	0
GK	上野	0
FP	篠原	3
FP	小池	6
FP	田島	5
FP	田中	0
FP	二村	1
FP	荒瀬	0
FP	大畑	3
FP	加賀谷	0
FP	岡村	0
FP	鈴木	0
PT	(0)	18

〔審・島崎 井上〕

	〔重機〕	得
GK	深瀬	0
GK	石井	0
FP	山崎	0
FP	市川	7
FP	中本	2
FP	森田	4
FP	呑村	0
FP	沖山	3
FP	大前	1
FP	渡辺	0
FP	矢田	0
FP	安田	5
PT	(1)	22

○…前半、重機は数多い得点のチャンスをミスで潰し苦しい試合展開であったが、2点リードで前半を折り返す。後半に入り必死に食い下がる東女体大ではあったが、重機・市川のロングシュートを阻止することができず、4点差で重機が勝利をものにした。

立石電機 27（13－7 14－3）10 武庫川女大

	〔武庫川〕	得
GK	三宅	0
GK	岡本	0
FP	岡山	1
FP	茂山	4
FP	林	0
FP	池渕	0
FP	大橋	0
FP	神並	1
FP	笠井	0
FP	堂下	0
FP	中村	1
FP	寄田	2
PT	(1)	10

〔審・千野 三枝〕

	〔立石〕	得
GK	井村	0
GK	荒木	0
FP	是枝	3
FP	近藤	1
FP	亀園	2
FP	岩村	1
FP	藪田	2
FP	江口	2
FP	山口	1
FP	山内	4
FP	野嶋	5
FP	ビスニッチ	5
PT	(8)	27

○…武庫川は立石の固いディフェンスに阻まれ、中に入り込めずシュート数が少ない。無理に入り込もうとするとかえってそれがミスを呼び、前、後半とも加点に苦しむ。守っても立石の速い動きを止め切れず、退場者を多く出しペースを乱す。立石の一方的な試合に終った。

大崎電気 28（10－10 18－5）15 ジャスコあゆみク

	〔あゆみ〕	得
GK	矢部	0
FP	辻本	0
FP	金森	2
FP	山下	6
FP	大橋	2
FP	宮崎	2
FP	重村	2
FP	松岡	1
FP	今里	0
FP	池内	0
FP	伊東	0
PT	(0)	15

〔審・島田 後藤〕

	〔大崎〕	得
GK	梅野	0
GK	藤田	0
FP	大日	0
FP	宮嶋	0
FP	石井	2
FP	時實	9
FP	徳渕	3
FP	沖山	3
FP	塩谷	1
FP	李相玉	5
FP	李京姫	4
FP	松尾	1
PT	(3)	28

○…前、後半ともに試合は淡々としたゲーム運びで展開され、攻守ともに勝る大崎電気の勝利。あゆみクは、大崎の固いディフェンスを早い小さなパスワークで崩し個人技で得点するも、余裕のある大崎電気の一方的なペースだった。

▼2回戦

ジャスコ 26（10－8 16－5）13 大和銀行

	〔大和〕	得
GK	高浜	0
GK	松本	0
FP	秋成	1
FP	高橋	1
FP	川添	1
FP	若水	3
FP	馬渡	1
FP	天谷	1
FP	前田	0
FP	丸田	1
FP	植田	1
FP	上西	3
PT	(1)	13

〔審・松尾 福田〕

	〔ジャ〕	得
GK	木村	0
GK	羽深	0
FP	寺沢	7
FP	石田	2
FP	鷲野	0
FP	伊勢	5
FP	三木	6
FP	宮本	0
FP	十丸	0
FP	野村	2
FP	近藤	4
FP	服部	0
PT	(1)	26

○…立ち上がり5分まで互角の展開。7分過ぎ、ジャスコは速攻を契機に4連続得点を握り、16－5と大和を突き放す。後半に入ってもジャスコは動きの悪い大和ディフェンスの間をつき得点を加える。それに対して、大和は最後まで動きのよいジャスコのディフェンスを破れぬまま終了の笛を聞いた。

日立栃木 22（12－6 10－6）12 日本ビクター

	〔日ビ〕	得
GK	渡辺	0
FP	志村	2
FP	中根	0
FP	門脇	0
FP	武藤	2
FP	長田	1
FP	遠藤	3
FP	鈴木	0
FP	下條	3
FP	池田	1
FP	根本	0
PT	(1)	12

〔審・島田 後藤〕

	〔日立〕	得
GK	椿谷	0
GK	葛生	0
FP	栗原	1
FP	西山	0
FP	清水	0
FP	土屋	2
FP	手打	3
FP	前田	5
FP	吉田	4
FP	山岸	2
FP	浅沼	0
FP	井沢	5
PT	(2)	22

○…前半から両チームともによく走り、一進一退のゲームを展開した。惜しむらくは日本ビクターの方に前半、パス、シュートミスが目立ち、チャンスをものにできなかった。後半はビクターがペースをつかみ加点したが、15分過ぎから日立栃木の攻撃にリズムがかわり、連続得点を重ね22―12で勝った。

立石電機 23 〔11―10／12―12〕 22 ブラザー工業

区分	〔ブエ〕	得
GK	畑添	0
GK	大藪	0
FP	竹内	6
FP	赤井	2
FP	中村	7
FP	増水	3
FP	太田	2
FP	久保田	1
FP	奥山	0
FP	荒木	0
FP	松下	1
FP	黒山	0
PT	(0)	22

審・井上、島崎

区分	〔立石〕	得
GK	井村	0
GK	荒木	0
FP	是枝	2
FP	近藤	2
FP	亀園	0
FP	岩村	5
FP	藪田	3
FP	江口	0
FP	山内	0
FP	野嶋	5
FP	長谷川	0
FP	ビスニッチ	6
PT	(4)	23

○…前半、立石はユーゴの強力助っ人・ビスニッチのロングとこれに合わせサイド、ポストと多彩な攻撃で加点。一方ブラザーは増永のポストプレーを中心に竹内、中村とボールを左右にすばやくふり立石ディフェンスをゆさぶり、これまた着々と加点。11―10と立石リードで前半終了。3本のPTを立石が外したが、立石ペース。

後半に入るや立石は、6分キャプテン藪田のスタンディング、サイドから近藤、藪田のカットから速攻とたて続けに連取し主導権をがっちり握る。しかし、ブラザーも必死に反撃、これを追い上げ、観衆も興奮、23分には同点に追いつく。その後、立石リード、ブラザーが追いつくというゲーム展開で手に汗を握る。しかし、残り51秒で立石・ビスニッチがPTを決め辛くも逃げ切った。

大崎電気 37 〔18―8／19―6〕 14 東京重機

区分	〔重機〕	得
GK	深瀬	0
GK	石井	0
FP	山崎	0
FP	市川	7
FP	中本	4
FP	森田	0
FP	呑村	0
FP	沖山	1
FP	大前	0
FP	渡辺	2
FP	矢田	0
FP	安田	0
PT	(1)	14

審・佐分、大塚

区分	〔大崎〕	得
GK	梅野	0
GK	大西	0
FP	大日	4
FP	宮嶋	5
FP	石井	4
FP	時實	4
FP	徳渕	3
FP	沖山	3
FP	塩谷	2
FP	李相玉	3
FP	李京姫	9
FP	松尾	0
PT	(5)	37

○…大崎は李京姫を中心にミドル、ポストシュートなど多彩な攻撃で東京重機のディフェンスをゆさぶり、前半18点。一方重機は市川の長身からのミドルシュートに頼っての攻撃で8点のみ。後半に入っても大崎の攻守は一方的で重機をものともせず、37―14と力量の差を見せたゲームであった。

▼準決勝

立石電機 15 〔9―4／6―10〕 14 ジャスコ

○…両チーム好調な滑り出し。立石は岩村、ビスニッチと連取、ジャスコも反撃してよいムード。寺沢、近藤、鷲野が決めて準決勝にふさわしい好ゲーム。しかし、

区分	〔ジャ〕	得
GK	木村	0
GK	山口	0
FP	寺沢	3
FP	石田	0
FP	鷲野	4
FP	伊勢	1
FP	三木	1
FP	宮本	1
FP	十丸	0
FP	野村	0
FP	近藤	4
FP	服部	0
PT	(2)	14

審・後藤、島田

区分	〔立石〕	得
GK	井村	0
GK	荒木	0
FP	是枝	1
FP	近藤	5
FP	亀園	0
FP	岩村	2
FP	藪田	1
FP	江口	1
FP	山口	0
FP	山内	0
FP	野嶋	1
FP	ビスニッチ	4
PT	(2)	15

ビスニッチはマークできたものの立石・近藤に5得点を許す結果となり、完全なる立石ペース。ジャスコ18分間無得点。後半攻めあぐむ立石に対しジャスコは速攻、ポスト、ミドルとおもしろいように決まり、1点差まで詰め寄ったが、前半の無得点18分間が非常に惜しまれる。

日立栃木 26 〔14―13／12―10〕 23 大崎電気

○…李コンビを中心に多彩な攻撃を誇る大崎は、前田、山岸らのタイミングのよいシュートで応じる日立をリードするが、中盤、李相玉が負傷でベンチに下がった機に乗じられ、逆に日立1点差で前半終了。

区分	〔大崎〕	得
GK	梅野	0
GK	大西	0
FP	大日	0
FP	宮嶋	5
FP	石井	2
FP	時實	1
FP	徳渕	2
FP	沖山	0
FP	塩谷	0
FP	李相玉	5
FP	李京姫	8
FP	松尾	0
PT	(3)	23

審・佐分、大塚

区分	〔日立〕	得
GK	椿谷	0
GK	葛生	0
FP	栗原	1
FP	西山	0
FP	清水	0
FP	土屋	4
FP	手打	4
FP	前田	7
FP	吉田	2
FP	山岸	4
FP	浅沼	0
FP	井沢	4
PT	(2)	26

後半、陣容を立て直した大崎は一時は4点差をつけて余裕を見せていたものの、残り10分からやや疲れで動きが鈍くなり、勢いに乗った日立に追いつかれ、時間いっぱいまで激しい攻防を応酬するが元気いっぱいの日立は粘りのなくなった大崎ゴールにたて続けに打ち込んで素晴らしい逆転勝利を握った。好ゲームであった。

▼決勝

日立栃木 21 〔9―9／12―11〕 20 立石電機

区分	〔立石〕	得
GK	井村	0
GK	荒木	0
FP	是枝	0
FP	近藤	5
FP	亀園	3
FP	岩村	3
FP	藪田	2
FP	江口	0
FP	山内	0
FP	野嶋	5
FP	長谷川	0
FP	ビスニッチ	2
PT	(4)	20

審・三枝、千野

区分	〔日立〕	得
GK	椿谷	0
GK	葛生	0
FP	栗原	0
FP	西山	0
FP	清水	0
FP	土屋	0
FP	手打	1
FP	前田	5
FP	吉田	4
FP	山岸	6
FP	浅沼	1
FP	井沢	4
PT	(4)	21

○…前半は互いに一歩も譲らず2点以上の差がつかないまま同点で後半に突入した。

後半に入り7分から立石が連続2名の退場者を出すと日立が3連取し、この試合初めての2点差となった。勢いに乗る日立は12―14から一気に4連取し勝利を決定づけた。しかし、立石も1名をセンターラインに残す変則ディフェンスで日立のリズムを乱し、終了直前にはビスニッチのロングなどで1点差に詰め寄ったが同点には追いつけなかった。

'84ロス五輪のオフィシャルサプライヤーに!

モルテンは'84ロサンゼルスオリンピック大会のオフィシャルサプライヤーとして、ロサンゼルスオリンピック組織委員会の公認を受け、バスケットボールとタンゴサッカーボールを公式試合球として提供することが決まっています。

brother

ワープロの頭脳と、タイプライターの使いやすさがひとつになりました。

タイプライターのブラザーが、日本語をぐ〜んと面白くしてしまいました。1400万台の生産実績をほこるブラザーがそのタイプ技術・エレクトロニクス技術を総結集して生んだ日本人のためのタイプライター。手にしたその日から、誰でもビックリするほど簡単に美しい日本語が打てます。指一本で自由自在、使い方も無限。しかも、使い場所を選ばない超軽量タイプです。「書く」から「打つ」へ——日本語の新しい時代が、いま、ピコワードからはじまります。

日本人タイプライター。

イヨ!

いつでもどこでも誰にでも打てる
初めての日本語パーソナルライター。
¥88,000
新登場

ブラザー日本語パーソナルライター
ピコワード
ブラザー工業株式会社
名古屋市瑞穂区堀田通9-35 〒467
TEL (052)824-2511(代表)

第27回〈女子20回〉★★★★★★

★全日本学生選手権大会

日大、念願の初優勝！

日体大、余裕のV2

第27回（女子20回）全日本学生選手権大会は、11月21日から25日までの5日間、石川県金沢市で、男子24校、女子16校が栄冠目ざして競った。

今大会、男子の方は日大と大体大という東西の対決となったが、日大が後半逆転して初の栄冠を獲得した。

女子の方は、日体大と東女体大という関東勢同士の対決となったが、終盤ペースをつかんだ日体大がふり切って2年連続13回目の優勝を飾った。

男子★

北海道大 24（12－11、12－11）22 金沢工大

〔金工大〕		得
GK	内田	0
GK	西山	0
FP	岡	0
FP	五十嵐	1
FP	喜多	2
FP	藤井	8
FP	山岡	0
FP	岡田	1
FP	木上	0
FP	小林	10
FP	高橋	0
FP	斉藤	0
PT	(1)	22

〔北大〕		得
GK	小山	0
GK	杉野	0
FP	高橋	7
FP	望月	7
FP	島田	3
FP	島津	2
FP	鈴木	0
FP	石橋	3
FP	大津	0
FP	大堀	2
FP	佐藤	0
FP	三浦	0
PT	(0)	24

〔審・岡本 清水〕

○…立ち上がり、両チームともにハンドリングの悪さが目立ち、なかなか得点に結びつかない。北大は速攻とロングシュートを中心に、金沢工大は小林のカットインを中心に攻めるがシーソーゲーム。

後半に入ると、北大はサイドシュートで連取し水をあけるかと思われたが、金沢工大は小林、藤井の連続得点で追いつく。しかし、結局金沢工大も決め手を欠き、追い越すことはできず敗れる。

法政大 24（14－6、10－6）12 名城大

〔名城大〕		得
GK	伊藤	0
GK	吉見	0
FP	広瀬	3
FP	倉橋	1
FP	杉山	0
FP	堀	4
FP	木下	0
FP	壁谷	3
FP	柴田	1
FP	堀	0
FP	水谷	0
FP	羽根	0
PT	(1)	12

〔法大〕		得
GK	山田	0
GK	波田野	0
FP	水ノ江	8
FP	関根	0
FP	佐伯	4
FP	藤井	7
FP	立松	1
FP	田野倉	1
FP	東田	0
FP	桜井	2
FP	清野	1
FP	戸田	0
PT	(3)	24

〔審・高橋 阿部羅〕

○…法大の先取点でゲームは始まったが、名城も得点をあげ、前半15分くらいまでは一進一退のゲームを展開。しかし、セット、速攻と着実に点を重ねる法大が10－6とリードして前半を終了。

後半、10分ぐらいまでは両チームとも点の取り合い。しかし、それから23分ぐらいまで名城は全く点が取れず、法大の一方的な展開となった。

京産大 27（13－9、14－10）19 広島大

〔広島大〕		得
GK	宮川	0
GK	本地	0
FP	西田	0
FP	斉藤	1
FP	林	5
FP	有吉	3
FP	飯島	6
FP	中村	2
FP	鶴	0
FP	上野	2
FP	松浦	0
FP	立田	0
PT	(4)	19

〔京産大〕		得
GK	成宮	0
GK	石丸	0
FP	内田	7
FP	水谷	1
FP	中野	5
FP	富士	5
FP	武本	1
FP	吉野	0
FP	高木	2
FP	和田	2
FP	神谷	4
FP	原野	0
PT	(3)	27

〔審・庄司 志々場〕

○…前半、両チーム一進一退の攻防が続き、広島・有吉のカットイン、上野のサイドで得点するが、京産大も内田、富士のミドルで加点、白熱したゲーム展開となる。

後半、残り10分で同点に追いついた広島であったが、退場を境に地力に勝る京産大がじりじりと点差を広げ突き放した。

福岡大 28（12－11、16－7）18 東海大

〔東海大〕		得
GK	高橋	0
GK	石川	0
FP	福士	6
FP	菅田	4
FP	中原	3
FP	渡辺	1
FP	吉田	1
FP	田村	2
FP	山田	1
FP	内田	0
FP	網代	0
FP	堤	0
PT	(2)	18

〔福岡大〕		得
GK	桑野	0
GK	田中	0
FP	山本	2
FP	池之上	4
FP	上原	4
FP	遠藤	1
FP	加賀	4
FP	古賀	2
FP	仲本	0
FP	木切倉	9
FP	高須	0
FP	仁熊	2
PT	(4)	28

〔審・村谷 高田〕

○…立ち上がり両チームとも1点を取り合うシーソーゲームを続けていたが、前半10分、6－6から東海の得点がピタリと止まった。それにひきかえ、動きの早い福岡は速攻で着々と加点、リードを広げていった。後半に入ると、東海大も相手ミスから得点を重ね詰め寄ったが、気力に勝る福岡が東海を突き放し、1回戦をものにした。

慶応大 26（12－11、14－10）21 天理大

○…前半、慶応は平林を中心とした攻撃の中でサイド、ポストをうまくからめ得点をあげた。一方、天理も慶応の高いディフェンスを持ち前のスピードを生かし再三ペナルティーを誘い、確実に得点、前半を慶応の14－10で終えた。

	天理大	得	慶応大	得
GK	島井	0	青木	0
	志方	0	勝又	0
FP	浦	0	渡辺	3
	正田	0	宮沢	0
	松本	0	泉	0
	小池	2	川本	0
	高村	2	平林	7
	狩野	0	高岡	5
	杉森	6	木全	3
	亀野	6	今井	3
	中山	1	川島	0
	竹下	4	中山	5
PT	(5)	21	(4)	26

〔審・佐野、中村〕

後半、天理GKの好守とスピードあるカットインで8分には1点差まで詰め寄り、2点差の中での攻防が18分まで続いたが、天理の速攻ミスが逆に慶応の速攻となり21分3点差、23分平林のロングで22—18となり、天理も追いすがったがとどかなかった。

金沢大 32〔14—10 18—13〕23 久留米工大

	久工大	得	金沢大	得
GK	中村	0	橋本	0
	フィリップ	0	桜打	0
FP	野中	1	北岡	7
	二川	5	下田	4
	栗原	0	竹下	0
	板山	6	垣内	0
	永延	2	園下	9
	若狭	3	山口	2
	高松	3	徳海	9
	松永	0	岩元	1
	林田	3	丸山	0
	山口	0		
PT	(4)	23	(3)	32

〔審・後藤、羽田〕

○…熱心な地元の声援を背にした金沢大は、終始意欲と集中力に満ちたゲームを展開し、わけてもGK橋本の巧技、また、北岡の余裕あふれる好リードで久留米工大につけ入るスキを与えず快勝した。

日体大 31〔13—5 18—12〕17 大阪大

	大阪大	得	日体大	得
GK	足立	0	石井	0
			北川	0
FP	森山	2	小川	7
	貞広	0	牧島	3
	阿山	0	河本	0
	田坂	4	今井	1
	川本	2	太田	2
	新野	3	中沢	10
	鈴木	2	横山	1
	小沢	1	清水	0
	宮坂	3	藤田	3
	山下	0	橋本	4
PT	(3)	17	(2)	31

〔審・岩本、倉見〕

○…小技で攻める大阪大だが、体格差が大きく日体のディフェンスに阻まれ、6点差で前半を終えた。後半、始め5分間両チームともシュートミスが目立ち点が入らなかった。その後、日体が持ち前の速攻とロングシュートで点を取り、2回戦進出を決めた。

仙台大 31〔20—13 11—13〕26 早稲田大

	早大	得	仙台大	得
GK	天野	0	斉藤	0
	小島	0	山村	0
FP	今田	2	井村	6
	岩佐	0	佐藤	0
	加藤	8	池上	4
	古平	0	松本	0
	谷藤	1	田中	2
	岡田	7	橋川	0
	小坂	0	星宮	0
	平野	0	米倉	0
	坂田	7	渡辺	5
	柚山	1	豊野	14
PT	(2)	26	(7)	31

〔審・太田、山本〕

○…仙台が先取。調子の出ない早稲田に対し、仙台はGKが好捕着実に加点する。10分過ぎからリズムを取り戻した早稲田はよく走り、逆転して13—11で前半を終了。

後半に入って両チームのキビキビした攻防が続き一進一退。14分早稲田の加藤の2回目の退場の間に仙台が4点を連取して逆転、そのまま勢いに乗って逃げ切った。

▼2回戦

日本大 33〔18—1 15—6〕7 北海道大

	北大	得	日大	得
GK	小山	0	宮田	0
	杉野	0	吉田	0
FP	高橋	0	金原	10
	望月	1	内藤	6
	島田	2	小林	2
	島津	0	加藤	3
	鈴木	0	武田	0
	石橋	2	嶋川	0
	大津	0	佐藤	2
	大堀	2	阿部	0
	佐藤	0	浜田	9
	三浦	0	岡	1
PT	(1)	7	(4)	33

〔審・岩本、倉見〕

○…前半、北大は15分まで1—8と全く点が取れず日大の一方的な展開になると思われたが、それ以後15分点の取り合いとなり前半を終了。後半、攻撃、ディフェンスに勝る日大は一方的に試合を進め、26分過ぎまで無失点で押え、圧倒的な強さを見せた。

法政大 26〔16—9 10—15〕24 同志社大

	同大	得	法大	得
GK	花田	0	山田	0
			波多野	0
FP	児玉	0	水之江	8
	大本	0	関根	2
	田岡	0	佐伯	0
	奥畑	8	藤井	10
	岩本	0	立松	1
	三幸	3	田野倉	3
	江南	3	原田	0
	林	2	桜井	1
	池辺	2	端野	0
	酒井	6	戸田	1
PT	(2)	24	(2)	26

〔審・志々場、庄司〕

○…前半、絶えず得点をリード、試合を有利に進めた同志社であったが、後半に入り攻撃に粗さが目立ち始め、逆に法政の速攻を誘い次第に追い上げられて、後半25分遂に逆転された。その後、法政は執ような同志社の反撃をふり切り勝利をものにした。

筑波大 40〔20—5 20—9〕14 京産大

	京産大	得	筑波大	得
GK	成宮	0	山崎	0
	石丸	0	岡本	0
FP	内田	4	杉森	5
	水谷	1	朝生	6
	竹内	0	角	4
	中野	0	児玉	1
	富士	4	田川	3
	武本	0	武井	6
	吉野	0	田中	5
	高木	1	八田	8
	和田	2	山中	3
	神谷	2	会田	1
PT	(2)	14	(4)	40

〔審・後藤、羽田〕

○…力の差のある両校。京産大は荒いディフェンスで退場もあり前半15分で11—3と筑波大がリード。京産大は筑波大のディフェンスを切り崩せず、プレスディフェンスを切り崩せず、前半20—9と筑波大が大きくリード。

後半に入ると京産大は筑波大のスピードについていけず、ディフェンスが荒くなり高木が失格、後は一方的な試合展開であった。

中部大 25〔16—11 9—10〕21 福岡大

○…河原のロングを中心とする高さの中部大に対し早いボール回しからカットインを主体とする福岡大の一戦は、終始1点を争う好ゲーム。後半も残り5分を切ってから福岡大は、速攻、PTを中部大GK玉城に阻まれ、一方中部大

は今村がポスト、速攻を確実に決め、勝負の明暗を分けた。

〔福岡大〕	得		〔中部大〕	得
桑野	0	GK	下城	0
田中	0	GK	魚井	0
山本	2	FP	毛利	1
池之上	4	FP	山村	1
上原	3	FP	馬場	2
遠藤	1	FP	北	0
加賀	3	FP	今村	6
古賀	0	FP	當山	1
仲本	0	FP	荷川取	2
木切倉	7	FP	河原	12
高須	0	FP	中野	0
仁熊	1	FP	中村	0
(4)	21	PT	(5)	25

〔審・阿部羅 古橋〕

国士館大 23〔14—7 / 9—13〕20 慶応大

〔慶大〕	得		〔国士大〕	得
青木	0	GK	渡辺	0
勝又	0	GK	大崎	0
渡辺	1	FP	内藤	5
宮沢	0	FP	吉田	1
泉	0	FP	有松	1
川本	0	FP	近嵐	0
平林	5	FP	綿引	4
高岡	5	FP	鈴木	7
木全	1	FP	横浜	2
竹本	0	FP	細津	0
今井	5	FP	大谷	3
中山	3	FP	斉藤	0
(1)	20	PT	(1)	23

〔審・岩本 倉見〕

○…前半20分までは両チーム一進一退のゲーム展開。残り10分で慶応がリードし前半終了、後半は逆に国士館がディフェンス、攻撃で慶応を圧倒し逆転した。

中京大 31〔13—13 / 18—9〕22 金沢大

○…前半15分頃まで金沢大がうまくペースをつかんだ試合運びで7—7という点の取り合いから中京大にスピードある走りが出てマイペースをつかみ、前半を18—9とした。後半に入って中京大の一方的な展開かと思わせたが、時々見せる早いボール回しから素晴らしい得点もあったが、何か元気ないゲームになってしまった。

〔金沢大〕	得		〔中京大〕	得
橋本	0	GK	柿木	0
桜打	0	GK	宇佐見	0
北岡	6	FP	渡辺	2
下田	1	FP	酒巻	8
竹下	0	FP	岩田	5
垣内	2	FP	青木	1
園下	6	FP	榊原	0
山口	1	FP	菊池	3
徳海	5	FP	谷口	5
岩本	1	FP	渡辺	0
丸山	0	FP	岩田	0
内藤	0	FP	西川	7
(3)	22	PT	(1)	31

〔審・志々場 庄司〕

中央大 22〔11—11 / 11—7〕18 日体大

〔日体大〕	得		〔中大〕	得
石井	0	GK	宇田川	0
北川	0	GK	宇田川	0
小川	0	FP	清家	3
牧島	0	FP	小山	1
河本	4	FP	松田	0
太田	0	FP	大木	8
中沢	8	FP	佐藤	0
横山	0	FP	相川	3
清水	2	FP	安藤	0
藤田	0	FP	茂木	3
橋本	3	FP	江沢	4
斉藤	1	FP	柴田	0
(7)	18	PT	(4)	22

〔審・伊藤 加藤〕

○…体と体がぶつかりあう荒い試合展開。両チームも相手DFの狭い間隙をついてシュートを放ち力強いプレーが随所に見られたが力に勝る中大が前半をリードし、後半に入っても、そのリードを手堅く守り切った。

大体大 28〔17—8 / 11—11〕19 仙台大

○…試合は両チームともよく鍛えられたプレーを随所に見せ、互角の様相で終盤まで推移した。後半20分17—19の2点を追う仙台大はポストでPTを得た。大体大ベンチはGK徐をさげて山下を起用。ここで仙台大エースの豊野の一投は山下の顔面を直撃。1点差に詰めるどころか一転して退場処分、ピンチを迎え、この後大体大に連取を許した。仙台大の善戦というよりは力のこもった好ゲームであった。

〔仙台大〕	得		〔大体大〕	得
斉藤	0	GK	山下	0
山本	0	GK	徐	0
井村	1	FP	中浦	0
佐藤	0	FP	佐久間	2
池上	4	FP	坂本	10
松本	0	FP	古賀	4
田中	3	FP	上原	0
橋川	2	FP	岡田	0
星宮	0	FP	有吉	1
米倉	0	FP	山村	4
渡辺	3	FP	大塚	3
豊野	6	FP	楠本	4
(5)	19	PT	(2)	28

〔審・後藤 羽田〕

▼3回戦

日本大 19〔10—6 / 9—4〕10 法政大

〔法大〕	得		〔日大〕	得
山田	0	GK	宮田	0
波多野	0	GK	吉田	0
水之江	3	FP	金原	3
関根	0	FP	内藤	2
佐伯	1	FP	小林	0
藤井	5	FP	加藤	3
立松	0	FP	武田	6
田野倉	0	FP	嶋川	0
原田	0	FP	佐藤	0
桜井	1	FP	阿部	0
清野	0	FP	浜田	3
戸田	0	FP	岡	2
(1)	10	PT	(2)	19

〔審・後藤 羽田〕

○…ともに試合巧者であるため淡々とした試合運びの中にも素晴らしいコンビネーションプレーが見られ、一歩リードする日大に対し法政が追いすがるという形で前半を終わる。

後半に入ってもゲームは日大の固いペースで進められ、日大の固いディフェンスを攻めあぐむ法政のミスなども重なり、盛り上がりを欠いたまま思わぬ大差がついてしまった。

筑波大 28〔11—6 / 17—8〕14 中部大

〔中部大〕	得		〔筑波大〕	得
玉城	0	GK	山崎	0
魚井	0	GK	岡本	0
毛利	1	FP	杉森	7
山村	3	FP	朝生	4
馬場	1	FP	角	0
北	0	FP	児玉	0
今村	2	FP	田川	4
當山	0	FP	武井	4
荷川取	1	FP	田中	3
河原	6	FP	八田	4
中野	0	FP	山中	0
中村	0	FP	会田	2
(4)	14	PT	(2)	28

〔審・阿部羅 古橋〕

○…筑波大の固いディフェンスに加え中部大のシュートミスが多く、速攻による得点が多かった。一方、筑波GKもよく健闘、走られたわりに失点を少なくとどめた形の前半であった。

後半、リズムを取り戻した中部大がボールをじっくり回し確実に得点を重ね応戦するも前半の借金が試合を決めてしまった。

国士館大 26〔14—14 / 12—10〕24 中京大

○…東海1位の意地にかけても負けられない中京大は、持ち前の速攻、酒巻のロングなどでリードを奪ったが、粘る国士館も逆速攻で応酬、一進一退の好ゲームを展開したが、前半終了5分前から国

〔中京大〕得0038200021008　24
木見辺巻田木原池口辺田川
柿宇佐渡酒岩青榊菊谷渡岩西　(1)
GK FP（審・後藤 羽田）PT

〔国士大〕得0033009920000　26
辺崎藤田松嵐引木浜津谷藤
渡大内吉有近綿鈴横細大斉　(1)
GK FP（審・後藤 羽田）PT

士館のコンビプレーが決まり出し2点差をつけて折り返す。
　後半に入ると中京大のエース酒巻へのマークが厳しくなり、逆に国士館の鈴木の左腕が冴え出し、いい所でロング、ミドルが決まって結局2点差のまま国士館が逃げ切った。

大体大27（15 12 ─ 11 10）21中央大

〔中大〕得004403040150　21
川川家山田木藤川藤木沢田
宇宇田田清小松大佐相安茂江柴　(1)
GK FP（審・岡本 清水）PT

〔大体大〕得00022600310 13　27
下　浦間本賀原田喜村塚本
山徐中久佐坂古上岡斉山大楠　(6)

○…前半、一進一退の好ゲームが展開され、中大はポストプレー、一方の大体大はPT、インターセプトを含める速攻で前半を終わった。後半も10分過ぎまでは前半と同様一進一退のゲームを展開したが、15分過ぎには2本連続のインターセプトを3点差で開き、その後は少しずつ水をあけて大体大が勝利をものにした。

▼5位決定戦

中部大22（12 10 ─ 8 11）19法政大

〔法大〕得048037100000　19
田野江根伯井松倉田井河原野
山波多之水関佐藤立田野原桜勅使清　(1)
GK FP（審・阿部 古橋 羅）PT

〔中部大〕得002410413700　22
城井利村場村山川取原野村
玉魚毛山馬北今當荷河中中　(2)

○…中部大GK玉城の好守にあってなかなか得点できなかった法政だが、15分を過ぎたころから法政・藤井のロングが決まり出し、逆転して法政の1点リードで前半を終えた。
　後半21分ごろまで1点差で逃げる中部大、追う法政の接戦が続いたが、中部大が速攻やGKの好守で逃げ切った。

中央大28（15 13 ─ 4 12）16中京大

〔中京大〕得001811112002　16
木見辺巻田木原池口辺田川
柿宇佐渡酒岩青榊菊谷渡岩西　(1)
GK FP（審・加藤 山本）PT

〔中大〕得0054111020230　28
川川家山田木藤川藤木沢田
宇宇田田清小松大佐相安茂江柴　(4)

○…中京大は体格的には劣りながらも持ち前のスピードある動きとパス回しから、酒巻がミドルシュートをよく決めた。後半は中大のポストのパスが通るようになり、中盤から次第に引き離した。

中央大31（15 16 ─ 8 8）16中部大

〔中部大〕得002210302510　16
城井利村場村山川取原野村
玉魚毛山馬北今當荷河中中　(1)
GK FP（審・岩本 倉見）PT

〔中大〕得008434330141　31
川川家山田木藤川藤木沢田
宇宇田田清小松大佐相安茂江柴　(3)

○…前半は気合の入らないゲーム内容となり、中部大はディフェンスの動きが悪く、中大に簡単にはずされて得点され16—8と中大リードで前半を終了。後半も同じように元気のないゲーム展開となり、中大の速攻を何本も許すというだらしのないゲームになった。

▼準決勝

日本大20（10 10 ─ 5 10）15筑波大

〔筑波大〕得003131241000　15
崎本森生玉川井中田中田
山岡杉朝角児田武田八山会　(0)
GK FP（審・岩本 倉見）PT

〔日大〕得005401300052　20
田田原藤林藤田川藤部田岡
宮吉金内小加武嶋佐阿浜　(3)

○…お互い手の内を知りつくした試合前の予想通り前半両者一歩も譲らず10—10で折り返す。
　後半に入って、日大は14分過ぎに、2連続で速攻を決めてから優位に立ち、26分ポストプレーで得たPTをものにした。これでリズムをつかんで20—15と筑波大をふり切った。
　好プレーの連続の見応えのあるゲームであった。

大体大29（16 13 ─ 10 6）16国士館大

〔国士大〕得002130170110　16
辺崎藤田松嵐引木浜津谷藤
渡大内吉有近綿鈴横細大斉　(1)
GK FP（審・岡本 清水）PT

〔大体大〕得00014200211 54　29
下　浦間本賀原田喜村塚本
山徐中久佐坂古上岡斉山大楠　(5)

○…スピードある両チームの対戦、序盤はなかなか得点が取れず苦しむ。5分30秒、大体大主将・坂本のカットインが決ってから両チームリラックスして各々の持ち味を生かし、早いテンポで得点が入る。国士館サウスポー鈴木もよく頑張るが、大体大は両サイドから山村、大塚が攻める。また、GK徐の再三にわたる好捕からの速攻が大きく試合の明暗を分けた。

▼3位決定戦

筑波大28（14 14 ─ 13 12）25国士館大

〔国士大〕	得
GK 渡辺	0
大崎	0
FP 内藤	5
吉田	2
有松	1
綿引	6
鈴木	7
横浜	2
細津	2
切明	0
大谷	0
斉藤	0
PT	(4)
	25

（審・岩本 倉見）

〔筑波大〕	得
GK 山崎	0
岡本	0
FP 杉森	6
朝生	0
釆野	0
角	6
児玉	4
田川	5
武井	3
田中	4
花田	0
高橋	0
PT	(3)
	28

○…田川の連続得点で先行した筑波大は、確実なプレーでコンスタントに得点をあげた。それに対し、国士館も綿引などの積極的なカットインプレーでついていき、筑波大の2点リードで前半を終了。

後半に入っても一進一退の攻防が続き、国士館が同点に追いつく場面もあったが、10分過ぎから筑波大がペースをつかみ4点をリード。その後国士館も立ち直り、再び点の取り合いとなったが、中盤のリードがものをいい筑波大が勝利を収めた。

▼決勝

日本大 16〔7－8 9－5〕13 大体大

〔大体大〕	得
GK 山下	0
徐	0
FP 中浦	0
佐久間	1
坂本	2
古賀	4
上原	0
岡田	0
斉喜	0
山村	1
大塚	3
楠本	2
PT	(0)
	13

（審・岡本 清水）

〔日大〕	得
GK 宮田	0
吉田	0
FP 金原	3
内藤	5
小林	0
加藤	2
武田	3
嶋川	0
佐藤	0
阿部	0
浜田	2
岡	1
PT	(2)
	16

○…前半、日大は内藤のミドル、ポストを使ってのプレーに冴えを見せて、10分過ぎて5－2とリード。しかし、大体大もよく守り、相手のミスに乗じて山村、大塚の速攻を出し、23分5－4と1点差に詰め寄る。その後内藤のミドルを許すが、27分坂本のポストで同点、その後日大・武田のサイドで返すが、大体大のミドルで前半7－8で終了。

後半に入って6分まで両チームよく守り無得点。

しかし、日大・内藤のサイドで同点に追いつく。その後、日大は20分まで速攻、ミドル、PTで5点を連取、勝負を決めた。

女子 ★

▼1回戦

日体大 46〔20－4 26－1〕5 大阪成蹊女短大

〔成蹊女〕	得
GK 糸井	0
田中	0
FP 岡田	1
竹内	1
坂本	0
北浦	1
光井	0
三木	0
上	0
木下	1
井上	0
秋山	1
PT	(1)
	5

（審・高村 田谷）

〔日体大〕	得
GK 塩畑	0
広瀬	0
FP 宮田	4
石原	1
山本	11
李	8
小口	3
吉岡	3
大野	5
梅原	2
江原	9
黒沼	0
PT	(12)
	46

○…前半早々から日体大の積極的なディフェンスに手こずる成蹊は、単発のロングが多くなり、GK塩畑とのコンビネーションの良い速攻で、着実に加点する日体大が優位のまま、20－4で前半を終了した。

後半も日体大の分厚い攻撃が続いたが、小兵集団の成蹊もよく耐え、時折見せる6人全員での速攻もスピード豊かなものであった。

王者日体大の胸をかり最後までゲームを捨てずに頑張った成蹊の今後の活躍に期待したい。

福岡大 28〔13－8 15－7〕15 岩手大

〔岩手大〕	得
GK 工藤	0
FP 川村	4
鈴木	1
工藤	5
藤原	0
阿部	5
種市	0
田口	0
大森	0
松尾	0
千葉	0
PT	(2)
	15

（審・太田 山本）

〔福岡大〕	得
GK 田川	0
沢辺	0
FP 尾木	4
栗林	4
陶山	6
山田	6
宮川	0
長野	1
本多	0
延岡	0
高木	2
増田	5
PT	(2)
	28

○…ポスト、サイドを使って攻める岩手に対し、シュートカット、ボールカットからの逆速攻で福岡が応戦、スピードに乗った福岡が常に試合をリード、前半は13－8で終わる。

後半に入ってポスト、サイドをマークされた岩手、ロングシュートもなく攻めが単調になる。一方福岡は、ハーフ速攻、フェイント、カットインと足を使った多彩な技で点差を広げていった。

筑波大 43〔20－7 23－0〕7 岡山県短

〔岡山短〕	得
GK 松本	0
FP 渡辺	1
那須	1
石井	2
広瀬	0
磯山	0
奥原	3
大森	0
吉川	0
小山	0
菅原	0
PT	(1)
	7

（審・伊藤 加藤）

〔筑波大〕	得
GK 樽谷	0
杉本	0
FP 伊賀	0
関	1
高木	13
中田	4
市川	3
芥川	6
吉永	2
沼田	9
鈴木	1
中嶋	4
PT	(5)
	43

○…立ち上がりから速攻、サイドシュートと多彩な攻撃を仕掛け得点を重ねる筑波大に対して、カットイン、ポストで応酬する岡山であるが、強力なディフェンスを破るまでに至らず前半20－7で終了する。

後半、実力で勝る筑波の一方的なゲーム展開となったが、それでも最後まで健闘した岡山は立派であった。

大教大 18〔9－11 9－5〕16 東海大

〔東海大〕	得
GK 石橋	0
平野	0
FP 吉川	2
岡田	1
浅川	3
八尾	4
中川	4
高野	2
羽仁	0
石谷	0
油座	0
PT	(3)
	16

（審・高村 田谷）

〔大教大〕	得
GK 鬼村	0
橋本	0
FP 西川	6
塩見	3
河野	0
中島	3
小倉	2
俵	0
立石	0
中尾	1
高尾	3
星	0
PT	(4)
	18

○…東海大・平岡氏、大教大・土井氏ともに東京教育大OBという兄弟（姉妹？）対決となり、カットイン、ずらしを主体とした相方ともに良く似た攻撃パターンを展開したが、確実性、ディフェンス

の固さで若干東海大が上回り2点差をつけて折り返す。
　後半大教大はフリースローからのフォーメーションプレーを駆使し必死に追いすがり、後半16分ついに逆転に成功、その後も一進一退の好ゲームを展開したが、終了寸前大教大・小倉のロングが決まり粘る東海を振り切った。

東女体大 45（22―5、23―3）8 福教大

	〔福教大〕	得
GK	紫田	0
FP	千々和	0
	田口	1
	橋本	2
	岩崎	0
	佐藤	5
	石松	0
PT	(0)	8

（審・太田、山本）

	〔東女体〕	得
GK	大坪	0
	上野	0
FP	篠原	5
	小池	13
	小田島	8
	田中	0
	二村	4
	荒瀬	3
	大畑	6
	加賀谷	0
	岡村	2
	鈴木	4
PT	(6)	45

○…エース小池を中心に地力に勝る東女体大が13点をあげ終始福教大を圧倒した。試合開始8分、福教大は3―5というスタートを切ったが、その後東女体大の堅い守りに阻まれ25分間得点することができなかった。
　大差で負けはしたが最後までがんばった福教大のさわやかなプレーが印象的であった。

大体大 29（14―1、15―1）2 茨城大

	〔茨城大〕	得
GK	平沢	0
FP	武藤	0
	海老原	0
	竹田	0
	藤田	0
	永富	0
	山田	0
	嶋崎	1
	大越	1
PT	(0)	2

（審・中村、佐野）

	〔大体大〕	得
GK	田中	0
	山本	0
FP	池上	12
	門屋	3
	花村	2
	松本	0
	森山	5
	川端	4
	橋本	0
	渡辺	2
	大角	0
	小橋	1
PT	(3)	29

○…優勝候補の一角大体大は、前半開始から9点連取しその地力を示した。ゲームメーカー池上の脚力を生かした攻めには見るべきものがあった。茨城大もフォーメーションプレーを多用ししばしばノーマークをつくったが、シュート力のなさが目立ち、大体大GK田中の好守の前に2点に封じられた。

日女体大 33（18―2、15―7）9 中京女大

	〔中京女〕	得
GK	浅井	0
	八鹿	0
FP	杉野	1
	鈴木	0
	下里	0
	前田	2
	堀川	3
	波多野	0
	杉浦	2
	尾崎	0
	早川	0
	鈴木	1
PT	(0)	9

（審・岡本、清水）

	〔日女体〕	得
GK	田中	0
	小塚	0
FP	安藤	2
	浜野	1
	大川	0
	北井	1
	豊永	5
	松垣	2
	中田	6
	石井	7
	小沢	7
	鳥羽	2
PT	(5)	33

○…3分中京女大7番のロングシュートで得点が動きだした。日女体大は2番のカットインで得点、試合はボール回し、ディフェンスと上まわる日女体大が速攻を交え15分8―4としたが、中盤両チームとも決め手を欠き思うように得点できずにいたが、22分過ぎより日女体大が速攻を決めはじめた。中京も応戦するが前半15―7で終えた。
　後半に入り、日女体大は持ち前の足を生かし加点、10分には20―8とした。中京は日女体大の堅いディフェンスを攻めきれず、ノーマークシュートもGKの好守に再三阻まれ押し切られた。

武庫川女大 16（6―5、10―3）8 東京学芸大

	〔東学大〕	得
GK	狩野	0
FP	藤原	0
	宮崎	0
	細田	0
	一柳	0
	森	5
	岡野	3
	小池	0
	後藤	0
	石橋	0
	林	0
PT	(4)	8

（審・阿部羅、古橋）

	〔武庫川〕	得
GK	三宅	0
	岡本	0
FP	岡山	4
	茂山	4
	林	0
	大橋	1
	神並	3
	笠井	0
	堂下	2
	糸永	0
	中村	1
	寄田	1
PT	(1)	16

○…武庫川の堅いディフェンスからの速攻が決まり前半から10―3と大きくリードをとった。東京学芸大の方も再三のチャンスがあったがGKの三宅の好守に阻まれ加点することができなかった。
　後半、相変わらず武庫川は足を使った速攻が決まった。しかし、東京学芸大のGKの好守によりなかなか追加点ができず、リードしながらも苦しい展開となった。

▼2回戦

日体大 33（16―9、17―3）12 福岡大

	〔福岡大〕	得
GK	田川	0
	沢辺	0
FP	尾木	3
	栗林	1
	陶山	4
	山田	1
	宮川	0
	長野	0
	延岡	0
	高木	1
	増田	2
	石田	0
PT	(1)	12

（審・伊藤、加藤）

	〔日体大〕	得
GK	塩畑	0
	広瀬	0
FP	宮田	2
	石原	1
	山本	8
	李	5
	小口	3
	吉岡	5
	大野	7
	梅原	1
	江原	1
	黒沼	0
PT	(5)	33

○…前半、福岡大は日体大に走りまくられ9分まで得点できず、その後PT、サイドシュートで3点止りだったが、後半福岡大も粘りを見せ15分過ぎまで一進一退のゲーム展開、だが前半の差が大きくまた、後半も力の差がしだいに出て日体大の完勝であった。

筑波大 25（12―6、13―6）12 大教大

	〔大教大〕	得
GK	鬼村	0
	橋本	0
FP	西川	5
	塩見	3
	河野	0
	中島	1
	小倉	3
	俵	0
	立石	0
	中尾	0
	高尾	0
	星尾	0
PT	(1)	12

（審・太田、山本）

	〔筑波大〕	得
GK	樽谷	0
	杉本	0
FP	伊賀	1
	高木	9
	中田	4
	市川	0
	芥川	1
	吉永	0
	沼田	2
	鈴木	0
	中嶋	1
	中嶋	7
PT	(5)	25

○…前半動きの速い筑波大は、5番高木を中心に得点をあげるが、大教大の粘り強い攻撃を守りきれず13分で5―4と筑波大がわずか1点リード。しかし、その後筑波大はコンビネーションプレーで着々と得点をあげ前半は13―6と差をつけた。後半にはいっても筑波大は着々と加点し大量リードを奪った。大教大はGKを中心によくがんばり粘り強い攻撃を見せたが力の差がでた。

東女体大 22〔12―12, 10―8〕20 大体大

	〔大体大〕	得	〔東女体〕	得
GK	田中	0	大坪	0
	山本	0	上野	0
FP	池上	5	篠原	1
	門屋	0	小池	10
	松本	2	田島	4
	森山	5	田中	0
	川端	0	二村	4
	橋本	0	荒瀬	0
	藤田	1	大畑	1
	大角	5	加賀谷	0
	小橋	2	岡村	0
	中尾	0	鈴木	2
PT		(0)		(3)
		20		22

（審・伊藤・加藤）

○…試合は開始当初から両チーム一歩も譲らず加熱したゲーム展開となり、一進一退の攻防が後半に入っても続いたが、13分、大体大2番池上が3連続で速攻を決め2点リードした。15分には東女体大が追い上げ再び同点。両者得点の奪い合いになったが終了1分前には2連続得点を決めた東女体大が辛くも勝利をものにした。

武庫川女大 15〔9―6, 6―5〕11 日女体大

	〔日女体〕	得	〔武庫川〕	得
GK	田中	0	三宅	0
	小塚	0	岡本	0
FP	安藤	2	岡山	0
	浜野	0	茂山	4
	大川	0	林	0
	北井	1	池渕	0
	豊永	0	大橋	1
	松垣	0	神並	1
	中田	4	笠井	0
	鳥羽	2	堂下	0
	石井	1	中村	6
	小沢	1	寄田	3
PT		(3)		(0)
		11		15

（審・太田・山本）

○…いまひとつ調子の上がらない武庫川の立ち上がりをついて日女体大は4点を連取、このままリードを奪うかにみえたが武庫川も得意の速攻で反撃。1―5の劣勢から一気に7点連取し逆転。後半に入っても展開は変わらず4点差で武庫川が勝利を収めた。武庫川もエース茂山のプレーに時々見るべきものがあったが、更に上位を目指すには、スピード、展開ともに反省が残るであろう。それにしても日女体大にとって悔やまれるのは5―1とリードで得たPTをはずし逆に武庫川に速攻を許したこと。

▼準決勝

日体大 23〔10―8, 13―7〕15 筑波大

	〔筑波大〕	得	〔日体大〕	得
GK	樽谷	0	塩畑	0
	杉本	0	広瀬	0
FP	伊賀	1	宮田	4
	高木	3	石原	0
	中田	4	山本	5
	市川	0	李	1
	芥川	1	小口	2
	吉永	0	吉岡	5
	沼田	3	大野	6
	鈴木	0	梅原	0
	中嶋	0	江原	0
	中嶋	3	黒沼	0
PT		(0)		(5)
		15		23

（審・後藤・羽田）

○…前半、20分までの攻防は筑波大が速いカットインプレーからシュートチャンスをつかんで得点し、勢いのあるゲーム展開で8―4とリードしていたが、日体大も徐々にペースを上げてロングシュート、速攻等で10―8でリードしてしまった。

後半筑波大は、必死に追いつこうとするがパスミス等でジリジリと点差をつけられる結果となった。両チーム一生懸命のプレーに好感を持った。

東女体大 23〔10―6, 13―5〕11 武庫川女大

	〔武庫川〕	得	〔東女体〕	得
GK	三宅	0	大坪	0
	岡本	0	上野	0
FP	岡山	1	篠原	1
	茂山	2	小池	17
	池渕	1	田島	2
	大橋	0	田中	0
	神並	0	二村	0
	岡	0	荒瀬	0
	笠井	1	大畑	2
	堂下	0	加賀谷	0
	中村	1	岡村	0
	寄田	5	鈴木	2
PT		(1)		(8)
		11		23

（審・岡本・清水）

○…接戦が予想されたが東女体大の一方的なゲームとなった。武庫川のプレーが通じたのも前半10分まで、得意とするスピードある走りが東女体大のディフェンスに封じられ、持ち味を出しきれずに終った。東女体大は17点を入れた小池の右腕が光った。決勝が楽しみである。

▼3位決定戦

筑波大 13〔10―4, 3―8〕12 武庫川女大

	〔武庫川〕	得	〔筑波大〕	得
GK	三宅	0	樽谷	0
	岡本	0	杉本	0
FP	岡山	4	伊賀	1
	茂山	2	高木	5
	林	0	中田	2
	池渕	0	市川	0
	大橋	1	芥川	1
	神並	0	吉永	0
	岡	0	沼田	4
	笠井	1	鈴木	0
	中村	0	中嶋	0
	寄田	5	中嶋	0
PT		(2)		(4)
		12		13

（審・伊藤・加藤）

○…試合開始早々3点を連取した筑波大は、試合の主導権を握り順調に得点を重ね前半大きくリードした。しかし、後半に入り武庫川女大はペースをつかみ、27分にはついに同点に追いついた。筑波大は、28分右サイドから10番沼田がシュートを決め粘る武庫川女大を振り切った。最終日一試合目から会場が盛り上がる好ゲームであった。

▼決勝

日体大 16〔8―8, 8―4〕12 東女体大

	〔東女体〕	得	〔日体大〕	得
GK	大坪	0	塩畑	0
	上野	0	広瀬	0
FP	篠原	2	宮田	0
	小池	5	石原	1
	田島	2	山本	3
	田中	0	李	1
	二村	1	小口	3
	荒瀬	0	吉岡	2
	大畑	1	大野	6
	加賀谷	0	梅原	0
	岡村	0	江原	0
	鈴木	1	黒沼	0
PT		(2)		(5)
		12		16

（審・後藤・羽田）

○…前半10分まで2―2と緊迫した状態が続き、10分過ぎから東女体大がパスカットからの速攻などで5―2とリードした。しかし、日体大はその後13番のミドル、PT、速攻で6―6の同点とし、その後も両チーム譲らず同点で前半終了。

後半に入り、8分までに日体大が8番のミドルで連取し11―8と3点差にするが、東女体大も4番のミドルで返す。10分から20分まで緊迫状態が続き、20分を過ぎて日体大がペースをつかみ16―12で勝ち優勝を決めた。

●技術講座●

レフェリー技術についての反省と回顧

西独バイエルン地区審判指導員
アルベルト・バルクハウゼン

シュートのときの反則判定に罰則が付随して与えられていないこと。毎回実施されているルール研究会ではルールの運用解釈についての一定の余裕範囲（怒限度・寛容度）についていつも未解決のまま放置している傾向があるが、これはむしろ非常に狭義に解釈されているかのごとく見受けられる。このルール解釈余裕範囲問題は西ドイツハンドボール協会（DHB）からの通達を通して結論となり、地方協会に伝達されなければならないものである。以下記された指摘事項は地区リーグ、国際試合、少年の部などを含めてあらゆる層での試合結果からどんなことがおこっているか知ることが出来るであろう。

レフェリーとチームは次のシーズンに一層の前進をはかる準備のため、ぜひこの理念を理解し受入れなければならない。

1 試合再開と罰則適用の分離状態

レフェリー、またはタイムキーパーの笛により進行中の試合は停止する。これには簡単に考えて三つの判定が基礎となる。

――次にどちらのチームのボールとなって再開されるか。

――どの種類のスローによるか。

――罰則適用可能状態となる、とくに場合によっては、タイムアウトとした後にそれが執行される。

レフェリーによる方向指示と試合再開方法に関連する判定が、17条、またはその他の条項の表現に従って観念的に分離状態になっている。

――相手プレイヤーに対してくりかえし行われるホールディングについてはフリースローにより試合続行（再開）させるだけでレフェリーはそれを罰則適用の対称として扱っていない。

――何らかのスローの実施について（例えば3mの距離を守らないとか）くりかえし行われる反則は人壁を作ることへの訓戒叱責とフリースローのくりかえしによって補償弁済されるものではない。

――明らかな得点チャンスでの相手に対し背中を押す突きとばす、シュートする腕をつかむなどの行為のあとの試合再開で、ただ単に7mスローを与えるという14—1aにあるとおりの帰結としてしまい、それが第8条の「相手に対する動作」を適用しようとしていない。残念ながら、おわりにあげた例は試合再開と罰則適用が故意でないにせよ、混同もしくは、こじつけになってしまっている。しかも14—9第2文には「……常に最低最小でも7mスローを与えるべき……。」と明らかに記されている。

トレーナーやプレイヤーはまず方向指示について関心を持ち、そしてそのあとは判定内容（たとえばオーバステップなのかどうか）の理由を知ろうとするものであるが、（速攻のチャンス到来と期待するゆえ）レフェリーとしては概念上他の方法順序をもととした判定基準による考え方をとるべきである。

――試合中断の理由については17条に従って適用する。（たとえばボールを下におかないことなど）

――どちらのチームが試合を再開するか。

――この目的のためどんな種類のスローが決められてあるか。

相手に対してくりかえし行われる反則に対してただフリースローか7mスローで処理するのみというようなおおざっぱな笛の吹き方を防止するには、どの吹笛でも、その吹き方の因果順序関係を頭脳的な自覚によって練習することによってのみ可能となる。

各種の判定に伴う方向指示について、レフェリーサイドは今後17条の示す適用基準に従って、それが、適正なものとなるよう期待してやまない。（否定か肯定かどちらかに判定する）。方向指示とIHF手記号の順序については（現在のテーマでは2—7）規定されていないが、迅速な試合運びのため先ず最初に方向指示をすべきだとされている。IHF手信号8～12では方向指示のことはすでに包合されている。17条の基準による吹笛につづいて試合再開の笛の合図を心要とされているときに即座に試合を再開するか、場合によっては、タイムアウトの後にもいづれも笛の合図が心要である。次にあげる一覧表は試合再開と17条の基準についての組織的識別トレーニングを容易にするものである。何らかのスローをさせる判定はレフェリーの技術としては、罰則適用の型を意味するものではない。ここにいくつかの例を示す。（次ページの上図）

例外的な場合では17条の規定による警告のかわりに、ただちに重い罰則を適用することが可能である。場合によっては上記の場合のフリースロー判定であってもそのときの状況に相応した種類のスロー判定であってもそのときの状況に相応した種類のスローを適用する。試合開始前、ハーフタイム中、試合終了後での基準については、17—11abcを参照のこと。

2 攻撃側プレイヤーによる反則についての累進増加罰則適用（段階的適用）

反則内容	タイムアウトの必要性	第17条	その後の続行再開
相手に対する動作での規則違反（つかまえる、つきあたる、手でブロックする、こぶしを用いるなど）	不要	不要	フリースロー
相手に対する動作でくり返し行なわれる規則違反	不要	警告	フリースロー
相手の何らかのスローのときの規則違反	不要	警告	フリースロー
チーム役員も含めての非スポーツ行為	不要	警告	フリースロー
ボール保持チームに対する判定の後ボールを下に置かない	不要	2分退場	フリースロー
不正交代	不要	2分退場	フリースロー
相手のスローのときの規則違反がくり返し行なわれたとき	不要	2分退場	フリースロー
相手に対する動作で何回もくり返して行なわれる規則違反	不要	2分退場	フリースロー
くり返して行なわれる非スポーツ行為	不要	2分退場	フリースロー
粗暴な反則によるか又は非スポーツ行為によって相手を阻止して明らかな得点チャンスをはばんだとき	必要	失格	7mスロー
明らかな得点チャンスでないとき粗暴な反則によるかまたは非スポーツ行為で相手を阻止したとき	必要	失格	フリースロー
3回目の退場宣告が行なわれたとき	必要	失格	フリースロー
コート外で暴力行為が行なわれたとき	必要	失格	フリースロー
コート内での暴力行為が明らかな得点チャンスに影響をおよぼしたとき	必要	追放	7mスロー
コート内での暴力行為が明らかな得点チャンスに影響を与えなかったとき	必要	追放	フリースロー

我々のスポーツであるハンドボールは往々にしてルールとその解釈の変更が急速ひんぱんであるため悩みの種となることが多い。それに加えて技術的戦術の分野でこのダイナミックな進歩、発展はしばしば判定をくだすことに大きな障害を作り出している。いわゆる攻撃側の反則は以下に記すような場合、問題提起の的となることのカテゴリーに入れられる。

——ルールブックには、どこにも攻撃側の反則という術語が表現されていないということは、この件の特殊性を示すものであるかに思わせる。

——このような攻撃側の反則についての処理はいつもながら特別な意味での満足心や、おりにふれては、むしろ推賞されるような表現方法がとられている。

——攻撃側の反則とは、たいていの場合ボールを持ったプレイヤーによる反則行為だけしかないと解釈される。

——フリースローと判定すること（試合再開）と17条の基準（罰則）とのはっきりした区別は近頃まれにしかみられない。

これらについては以下のようにはっきりさせなければならない。

——攻撃側反則は「時間稼ぎ」反則と同様あまり多くはないとはいうものの、相手プレイヤーに対する攻撃側チームの違反戦術行為としては頻繁な事例として存在する。

——攻撃側プレイヤーによる反則行動への処置は対照的な場合（ディフェンス側の反則とされることの多い）の正常な反射反応動作から生ずるものとされている。それゆえ今後は防御側の反則と認定することについても、また同様に特別の表現方法があって当然である。

——ボールを持っていない攻撃側プレイヤーの反則行為を本質的にかつ入念に観察し、まちがったやり方のブロックプレー行為や相手をゴールエリア内に押し込むことなどについては、主にゴールレフェリーが責任を持たねばならないものである。

——段階的に行う罰則適用は当然のことながら攻撃側プレイヤーの反則戦術に対しても効力を有するものである。そのため、たとえば肘を使っての戦術に対しても、ジャンプシュートのときに膝を高くあげるというような相手に負傷をさせかねないプレイヤーや相手をゴールエリア内に押し込むといったプレイ同様に17条の定める帰結関係に従うことが要求される。なにゆえに防御側プレイヤーだけが、その典型的な反則であるホールディング、プッシングによって段階的に罰せられなければならないのか!!そしてまたここに改めて、試合再開と、17条の間の矛盾を見出すのである。

3 防御側のプレイヤーの行動について

(2)で述べられた帰結関係で、すべての状況に対して同等公平のルール解釈が要求されるとするならば、次に述べる事柄もまた、防御側プレイヤーのルールに合致した行動としてあてはまるものである。防御側プレイヤーが、段階的罰則適用をさけようとするならば積極的にボール獲得を待ちうける（自チームのゴールスローしか相手のミスによるか）ことのほかには許されるすべての範囲でのルールの最大活用があるだけである。ボールを介しての争いで攻撃側には特別メリット的なものがなくなるものと思われる。他方では何回も何回も一定の状況下で頻繁なフリースローが、ボール保持中の攻撃側プレイヤーに与えられていることは、いかにも説明困難な状態に放置されている。なぜ攻撃側が圧倒的多数の場合、防御側の戦術行動の後でボールをとられてもそのほとんどがフリースローとなって攻撃側を有利にしてしまうのであろうか！　これらの場合を常に相手の身体に対する圧倒的排他的戦術原則とみなした上で判定をくだしているのであろうか！　ここで防御側は正当な手段で対処しているにもかかわらず、なぜこうなるかと異論が生じて当然となる。これらの正当な手段は段階的な罰の裏付けとなる基本的原則である第8条の理念により明らかなものとなっている。「その行為が相手プレイヤーの身体に対して圧倒的であり、排他的でありボールを対象としていない行為とみとめられるときは、そのプレイヤーは連続的、かつ加重的に罰せられる」逆説的にいえば「その行為がボールに対する意味で圧倒的排他的であればそれはルールに合致したものとして扱われるべきである」

第二に防御側の権利はルール内容から正確に読みとられる。すなわち以下のようにみとめられる（第7条、第8条）。

——ボールを手、腕、頭、胴体、上腿、膝を用いて投げ、つかみ、止め、突き、叩き、こぶしを使ってもよい。

——ボールを得るために両腕、両手を用いる。

——相手の持っているボールを、用いた片手でどの方向からも、はらいおとすこと。

——相手プレイヤーの進路を胴体（手足以外の部分）でさえぎること。これは相手がボールを持っていなくても同様である。

試合管理のための結論

ルールに合致した身体（胴体）のうごきに重点をおいた防御行動に対しては、罰せられることはない。攻撃側プレイヤーについても防御側のそれと同様の基準尺度が

あてはめられる。極端な粗暴行為を終始一貫して勇気をもって阻止するとともに、防御側のルールに合致した技術の許容範囲限度について保存維持にあたらなければならない。どのレフェリーも今後はこのうたがわしく不確実な攻撃側チームにフリースローのボーナスを与えるような趣旨の観察、監視をすべきではない。プレイヤー、トレーナー、観衆がこのことの不同性、不平等について明白に、しかたなく妥協しているようにみえても、ボールをうしなう、またうばわれることのすべてが防御側プレイヤーの反則の結果であるとは限らない。攻撃側がボールを失った（うばわれた）後にプレイヤーその他は形式的に笛が吹かれるのを待つだけである。

4 距離間隔を守ることの秩序、原則

ルール違反についての第二項（身体を使っての反則のすぐあとの）での観察では、各種スロー実施時の路離を保つことの違反状態が放置されているようにみえるが、この件についての新しい改訂版の記述は幸にして明らかにされている。（17―1C又は17―3C）

試合理念をあらわす一語を示す、フリースローは13―1による判定から見通すことが出来、ルール違反としてレフェリーの判定となることを意味するが同様にこれは「埋め合わせ」の試みになることも意味する。笛が吹かれる前の状態に復原することは「その埋め合わせ的な笛」によっても不可能なことは明らかである。

だからルールは、このことについて相手方のルール違反を処理する上での部分的解釈法として次のような事を求める。

――相手方はスローをするプレイヤーから最低3mはなれるか、場合によっては、ゴールエリアライン前に位置をとるべきである。（13―5）

――スローを実施する前に規定の最低距離を無視する行為をしてはならない。（16―1、16―4第1文に明らかである）

はじめから最低距離を守らないとか、またはスローが行われるよりはやく接近したりするような場合に妨害されないスロー実施に関するアドバンテージとみられる部分的相殺、埋め合わせに相当する規定がルールに明記されているのかどうか？―5、13―8、16―7おわりの文によってより一層広範囲な後盾を確立すべきである。時おり発生する絶望的な神頼み（無責任で裏付けに乏しい）ルール適用上その一貫性を欠いた（スロー実施時の距離を守らせることに）やり方はレフェリーに厳しく禁じられている。IHF手信号13は17―1C又は17―3Cにこそ適用すべきである。一貫性あるルール解釈に到達するための質問形式でのアピール。

――98～84のシーズンでこの文の読者にとってスロー実施時に距離を守らぬことへの罰が、はたしてどれだけの回数の警告と2分間の退場となってあらわれているか？

――17条の基準で相手方がレフェリーの吹笛後、またはそのスロー実施前に本来定められた距離よりも接近した回数はどれだけあったか？

――試合終了直前の時に勝負に影響をおよぼすほどの距離規定無視が見通せなかった世界選手権大会の諸場面は、もはや忘れ去られてしまったのであろうか？決定的に言えることは、16―7第1文を介してレフェリーが、太腹で応揚な吹笛により、ルールの精神をくもらせることに沈黙を守ってはならないということである。16―7おわりの文は、これらの関係事項を再び適正なものに引きもどすためにある。

5 試合時間中断（タイムアウト）について

ルール解釈の技術面からみたルール規定は註釈実施上、次のような因難さを持っている。まさに勝敗決定に直接につながるような（タイミングで（ときの反則になってレフェリーにとって18―13で現在のところ実際の試合での運用はその多くが不満足不十分な状態にある。試合でみられる二つのどっちつかずの事例がこのことを解明する材料となる。

――23対22の試合状況で青チームが勝っているとき、赤チームは試合終了直前に攻撃を仕掛けた。青チームの10番がボール保持チームのプレイヤーをハーフライン付近でホールディングで阻止しその結果ボールはこぼれてころがってしまっている。レフェリーは当然のことのこの10番を2分退場とした。

彼はレフェリーにくどくどと多弁に自分の行為を釈明したが、もちろん受入れられなかった。彼は相手プレイヤーに陳謝し握手をしてゆっくりと自チームベンチに向って歩いて行った。そこで（まだコート上に居るとき）彼は上衣をぬぎ、床に投げつけ、そしてまたのろのろとそれを拾い上げる動作をした。レフェリーは当然判り切っているはずの次の指示、吹笛につなぐべきであるのにタイムアウトをとらず、この粗暴な非スポーツ行為による失格処分をも認めることをせず、このプレイヤーの異常なスタンドプレー目的をかなえてしまった。こうしてもはや次の攻撃再構成に要する時間がなくなってしまった状態となっては、相手方は当然憤激す

る次第となる。

第2の場合
—終了直前で得点の切迫した試合でのPPPの型による試合時間中断について。

レフェリーは敗けているチームの異議申し立てや試合手段を（作戦・戦術上の）改めようとするたえまない両チームの消耗状態（激戦を意味する）の被害者となってしまった。

このことの解明

17—6と17—8による強制力あるタイムアウト適用はこの際問題ではない。以下に記すタイムアウト判定はルール上、強制されておらずとも議論の余地ない明らかなものである。

—他の原因による（ボール粉失、停電など）事故により続行が不可能になったとき。

—記録係、計時係との話し合いが必要な場合。

—プレイヤーの負傷のとき（速攻生起のときは少時待つことになるが他の場合では戦術的な負傷（詐術的演技）についても正当な理由根拠を与えることになってしまう。

終了直前のしかも得点が切迫した状況のもとで、タイムアウトをとることの是非については、次のような定義付けにより裏付けされる。反則後レフェリーの判定がその後の再開と罰則適用面で反則をしなかったチームに対して勝敗に大きな影響を与えてしまうほどの不利益が現れるとすれば、その間タイムアウトすべきである。同様にそれが得点後であってもそうすべきである。

以下記すことは、すべて試合終了直前でしかも得点切迫の状態での例である。

例①
僅少点差でリードしているチームのプレイヤーが退場処分をうけてからゆっくりと（負傷でもしたのか？）自チームベンチに行こうとしている。レフェリーの見解では、この状態は失格処分を適用するほどのものではないとしている。

例②
僅少点差でリードしているチームに対する7mスロー判定の後そのチームのGKは例①に表現したような状態で交替した。ここでもレフェリーは失格処分は過酷であると考えている。

例③
上記のような試合テクニック上の事実では反則をおかしたチームのプレイヤーは相手のフリースローのためボールをフリーの状態にしていない。むしろそれをあらぬ方へころがしてしまった。彼は秒単位の時間をちょろまかす行為によって退場処分が適用されることになる。レフェリーは失格にしようとは考えてはいない。

例④
僅少点差でリードしているチームの役員が警告された。刻一刻と過ぎて行く秒単位の時間でその非スポーツ行為（異議申し立て）をそれ以上に強めさせないために、レフェリーは警告を発する前にタイムアウトをとった。

—註釈—
このときのフリースローは反則が生じた所から行われることになるが、反則をしていないチームも不正交替同様に場合によっては後方にさがらねばならなくなる。これらの判定は当然のことながら前もってこの観点から詳細に考察すべきである。

例⑤
僅少点差でリードされているチームが得点したあと、GKはやけくそになってネットのすき間に入ったボールをとり出そうとして

いる。レフェリーはこの状況下での彼の意図を十分に考えておらず失格とするとは思いもしなかった。

例⑥

GKは僅少点差でリードしている最中その相手チームにより得点されたあとボールを手放してフリーの状態にした。だがころがっているボールを誰れもひろいあげようとしない。次のスローオフをすべきチームのプレイヤーは、それに注意をはらおうとしない。

これらのことから推測するとこのときの反則プレイヤー（ボールをひろおうとしないことがすでに反則ということか?）はいずれにせよ重大に取扱われることとなり、彼にとってチームにとっては、タイムアウトなしで退場処分をくだされる方が好都合となるわけで!! これは反則をしなかったチームに付加的に不利益をもたらすことになる。

タイムアウトをとることをきびしく忌避するすべての闘士（プレイヤー）に対しもう一度この試合理念と意図的に試合遅延効果が生ずることを期待するような、タイムアウトなしの退場や警告についての指摘言及を切にのぞんでやまない。

ルール上規定された原則的にタイムアウトをともなう判定である失格処分をも取消し出来るような成行を期待したがり、失格処分はもとより単一の目的のため課せられるもので、タイムアウトが当然ともなうがこの処置方法の比較的合いすら当を得ていないと思いたがる!。 あたり前のことながら試合終了直前に認められた非スポーツ的行為も当然罰せられることとなりこれは、場合によってはタイムアウトにしてから行われる。どちらともつかぬ事例ではタイムアウトをとるだけでよい。一定の狭義に限定された例外的場合でのタイムアウトの必要性についての基本原則的または模範的記述説明は他のすべての種類の理由根拠と分離して考えるべきである。終了に向っている試合時間はそれ自体正当なものであるが、タイムアウトにすることは他の通常の状態（フリースロー・スローイン）同様極めて少ない。15―1abにみられるレフェリースローもこれに対する根拠として強制されるものではない。まずはじめにプレヤー・トレーナー・観衆からこれを要求することは正しくない。奇怪なことには試合遅延に際してのタイムアウトの呼び声はリードされているチームの責任になる。（リードしているチームが7mスローのときにGKを交替させようとする）。3回PPPと吹きならされる笛の音は終了に近づきつつある試合の伴奏音楽として知られる現実状況であり、それにプレイヤー・トレーナー!・観衆は馴れてしまっている。

結びの言葉

観察でみとめられる解釈の相違についての批判的評価では、累進増加罰則適用とはげしすぎるプレーは除外されている。このテーマのもとに、次に行われる予定の研修会とDHBレフェリー通信の主要な課題として取扱われることとなる。現在問題となっている回顧反省は来るべきDHBレフェリー研修会の指針となるばかりでなく次のシーズンでのDHB観察専任者研修の構成要素ともなるものである。レギオナル（地域）ランデス（州）協会への配付と技術委員会役員とDHWによって、すべてのクラブへの周知公示は直接の利害関係人のための資料情報サークルと直結している。DHBは多くの資料引用を基にして基盤の確立を目指しその普及拡大は観衆や地方地方の報道機関を含めて、その機能実現に大きな関心を持っている。これには改めて個人的提案が要望される。

指示・通達に対してのときおり発表される欠点の指摘は、今や現在のような部分的範囲にとどまるものではなくなっている。どのルール規定に従って警察官が交通整理をするのかについて道路使用者が知ろうとしないというような異常なうけ入れがたい状態は過去にもそうであったように、情報のたえまない伝達によってまじめに努力を傾けて（改めるように）行かなければならないことである。

終りにあたって三つの関心事を述べる。

――私はレギオナルとランデスのすべての審判長におねがいする。6月30日の会議にはそれぞれの地区の審判教育者の住所を知らせてもらいたい。これは審判教育者も「DHBレフェリー通信」の一役を分担してもらいたいと考えているからである。

――すべてのDHBレフェリー研修会と観察研修参加者にお願いする。研修の実施にあたって問題となるルール上の質問（単純質疑または原理原則論どちらでも）をいつでもよいから前もって私に伝えてもらいたい。そしてこの質疑応答は研修計画に組入れられることになる。

――公式非公式を問わず、すべてのハンドボール関係者に対しそれぞれの持つ質疑（ルール上の）やその他のテーマについて答を求めたいと思うならば、私あて「DHBレフェリー通信」から文書で伝えてもらいたいと心から激励する。さしあたって4カ月ごとの発表型式は必要に応じて改められることになるであろう。

★各地学生秋季リーグ戦〈2部以下の結果〉

関東学生

▼男子2部

横国大 29－23 専大
専大 17－16 茨城大
東海大 31－16 東大
慶大 39－13 横国大
東海大 33－24 茨城大
慶大 25－9 東大
明大 30－21 横国大
東海大 43－10 横国大
明大 25－17 東大
専大 20－14 明大
慶大 34－9 茨城大
東大 21－20 専大
慶大 28－14 東学大
慶大 31－14 明大
東海大 24－22 東学大
東海大 23－18 専大
東学大 31－22 横国大
東大 18－14 茨城大
慶大 28－11 専大
東海大 23－19 明大
横国大 35－25 茨城大
東学大 25－20 明大
東学大 32－20 茨城大
東大 27－19 横国大
専大 21－21 東学大
慶大 24－22 東海大

●順位 ①慶応大②東海大③東京学芸大④明治大⑤東京大⑥専修大⑦横浜国大⑧茨城大

▼男子3部

上智大 17－13 明星大
東農大 24－20 東理大
武蔵工大 19－18 東農大
東農大 22－21 上智大
東理大 26－10 千葉工大
武蔵工大 23－20 神奈川大
上智大 28－16 千葉工大
立大 24－19 上智大
東理大 26－23 上智大
千葉工大 32－29 東農大
武蔵工大 33－28 立大
東農大 25－21 神奈川大
東理大 24－22 立大
明星大 20－14 武蔵工大
東理大 27－21 明星大
立大 25－22 東農大
上智大 29－25 神奈川大
千葉工大 22－15 武蔵工大
立大 18－12 千葉工大
東理大 21－18 神奈川大
明星大 22－19 東農大
東理大 25－18 武蔵工大
明星大 20－20 千葉工大
神奈川大 24－24 立大
神奈川大 26－24 明星大
神奈川大 38－19 千葉工大
武蔵工大 18－17 上智大
立大 20－19 明星大

●順位 ①東京理科大②立教大③武蔵工業大④上智大⑤東京農業大⑥神奈川大⑦明星大⑧千葉工業大

▼男子4部

芝浦工大 35－22 一橋大
創価大 30－23 青学大
文教大 26－15 青学大
一橋大 30－23 青学大
埼玉大 30－23 芝浦工大
文教大 23－18 一橋大
芝浦工大 20－19 防衛大
創価大 25－21 一橋大
埼玉大 22－22 亜大
防衛大 18－12 文教大
創価大 29－13 芝浦工大
亜大 23－21 青学大
一橋大 24－22 埼玉大
創価大 27－27 埼玉大
亜大 23－19 一橋大
一橋大 24－14 防衛大
文教大 23－22 埼玉大
芝浦工大 35－24 青学大
防衛大 34－26 青学大
防衛大 23－21 埼玉大
亜大 26－22 芝浦工大
亜大 13－10 創価大
芝浦工大 33－26 文教大
文教大 17－17 亜大
創価大 24－18 防衛大
埼玉大 52－24 青学大
防衛大 18－15 亜大
文教大 19－14 創価大

●順位 ①亜細亜大②創価大③文教大④芝浦工業大⑤防衛大⑥埼玉大⑦一橋大⑧青山学院大

▼男子5部

都立大 34－19 関学大
都立大 不戦勝 日工大
東経大 不戦勝 武蔵大
横市大 14－14 大東大
都立大 36－10 日工大
関学大 33－24 日工大
武蔵大 28－22 横市大
関学大 32－25 大東大
都留大 23－23 関学大
横市大 21－18 東経大
都立大 23－21 都留大
都立大 27－17 東経大
大東大 29－27 都立大
大東大 45－19 日工大
横市大 36－16 日工大
都留大 20－19 武蔵大
武蔵大 43－26 日工大
大東大 31－22 東経大
武蔵大 27－26 大東大
都留大 18－16 東経大
武蔵大 23－22 都立大
都立大 30－18 横市大
関学大 27－26 武蔵大
東経大 33－14 日工大
大東大 22－15 都留大
横市大 26－25 関学大
都留大 27－26 横市大
東経大 33－28 関学大

●順位 ①東京都立大②大東文化大③都留文化大④武蔵大⑤横浜市立大⑥関東学院大⑦東京経済大⑧日本工業大

▼男子6部

成蹊大 21－19 和光大
独協大 26－14 横商大
駒大 26－18 独協大
千葉大 31－21 横商大
駒大 35－13 和光大
千葉大 24－20 東工大
千葉大 20－20 成蹊大
東工大 18－17 横商大
東工大 26－18 成蹊大
横商大 27－15 和光大
東農工大 30－28 独協大
東農工大 27－18 和光大
駒大 33－13 東工大
独協大 25－25 千葉大
東工大 32－28 東農工大
横商大 22－19 成蹊大
和光大 29－28 千葉大
駒大 38－21 東農工大
独協大 28－24 成蹊大
独協大 30－20 和光大
東農工大 33－20 成蹊大
駒大 37－20 千葉大
駒大 30－17 横商大
千葉大 24－20 東農工大
独協大 29－26 東工大
東農工大 22－22 横商大
駒大 36－19 成蹊大

●順位 ①駒沢大②独協大③千葉大④東京工業大⑤東京農工大⑥横浜商科大⑦成蹊大⑧和光大

▼男子7部

○Aブロック

武道大 24－19 東洋大
武道大 21－14 玉川大
玉川大 35－7 東工芸大
武道大 28－2 東工芸大
東洋大 31－19 拓大
武道大 21－15 拓大
拓大 24－10 東工芸大
拓大 引き分け 玉川大

［Aブロック順位］①国際武道大②東洋大③玉川大④拓殖大⑤東京工芸大

○Bブロック

明学大 24－18 産能大
東外大 30－23 山梨大
群馬大 23－22 山梨大
東外大 26－19 群馬大
産能大 25－19 群馬大
明学大 35－20 群馬大
明学大 16－15 東外大
産能大 27－18 東外大
産能大 27－18 東外大
産能大 不戦勝 山梨大
明学大 引き分け 山梨大

［Bブロック順位］①明治学院大②産業能率大③東京外語大④群馬

大⑤山梨大

○順位決定戦

玉川大 28－20 東外大
産能大 24－22 東洋大
武道大 28－15 明学大
東工芸大 不戦勝 山梨大

●順位 ①国際武道大②明治学院大③産業能率大④東洋大⑤玉川大⑥東京外語大⑦群馬大⑧拓殖大⑨東京工芸大⑩山梨大

▼女子2部

創価大 不戦勝 青学大
千葉大 35－4 学短大
横国大 20－17 文教大
茨城大 36－6 駒大
創価大 42－0 学短大
茨城大 29－13 千葉大
千明短大 不戦勝 学短大
都留大 29－10 横国大
千明短大 34－4 千葉大
茨城大 27－16 文教大
横国大 40－2 学短大
千明短大 28－4 駒大
青学大 不戦勝 学短大
横国大 21－17 千葉大
創価大 18－3 千葉大
文教大 35－2 学短大
茨城大 19－18 都留大
都留大 不戦勝 学短大
茨城大 不戦勝 青学大
文教大 17－7 青学大
創価大 30－4 駒大
千明短大 21－11 都留大
都留大 28－19 文教大
文教大 25－9 創価大
茨城大 54－1 学短大
千葉大 15－13 青学大
都留大 32－15 駒大
千葉大 20－9 駒大
都留大 25－16 創価大
千明短大 27－9 文教大
横国大 17－12 創価大
都留大 30－16 千葉大
駒大 24－1 学短大
横国大 16－8 青学大
文教大 29－17 千葉大
千明短大 31－7 横国大
茨城大 24－10 創価大
横国大 23－6 駒大
千明短大 不戦勝 青学大
千明短大 31－4 創価大
茨城大 24－12 横国大
茨城大 23－20 千明短大
文教大 20－8 駒大
青学大 13－11 駒大

●順位 ①茨城大②千葉明徳短大③都留文化大④横浜国立大⑤文教大⑥創価大⑦千葉大⑧青山学院大⑨駒沢大⑩学習院女子短大

▼入れ替え戦

〈男子〉

立大 30－16 横国大
（3部2位） （2部7位）
茨城大 25－23 東理大
（2部8位） （3部1位）
慶大 21－14 順大
（2部1位） （1部8位）
早大 23－22 東海大
（1部7位） （2部2位）
成蹊大 17－15 明学大
（6部7位） （7部2位）
武道大 24－14 和光大
（7部1位） （6部8位）
独協大 22－12 東経大
（6部2位） （5部7位）
駒大 43－16 日工大
（6部1位） （5部8位）
一橋大 26－17 大東大
（4部7位） （5部2位）
都立大 32－22 青学大
（5部1位） （4部8位）
明星大 22－18 創価大
（3部7位） （4部2位）
千工大 24－16 亜大
（3部8位） （4部1位）

〈女子〉

東海大 25－9 茨城大
（1部6位） （2部1位）

●昇格 立教大、慶応大、国際武道大、独協大、駒沢大、都立大

●残留 茨城大、早稲田大、成蹊大、一橋大、明星大、千葉工業大、東海大（女子）

関西学生

▼男子2部

京教大 33－22 大経大
京教大 26－21 大院大
京教大 35－21 神戸大
京教大 32－15 和歌山大
京教大 30－18 京都大
京教大 35－19 関学大
大経大 28－25 大院大
大経大 38－30 神戸大
大経大 29－20 和歌山大
大経大 27－20 京都大
大経大 35－24 関学大
大院大 33－28 神戸大
和歌山大 24－22 大院大
大院大 30－21 京都大
大院大 33－23 関学大
神戸大 25－20 和歌山大
神戸大 26－24 京都大
神戸大 25－20 関学大
和歌山大 24－22 京都大
和歌山大 18－15 関学大
京都大 23－22 関学大

●順位 ①京都教育大②大阪経済大③大阪学院大④神戸大⑤和歌山大⑥京都大⑦関西学院大

▼男子3部

大市大 27－25 桃山大
大市大 28－27 奈教大
大府大 31－30 大市大
大市大 34－25 立命大
大市大 35－20 大教大
大市大 24－19 滋賀大
桃山大 33－26 奈教大
桃山大 32－17 大府大
立命大 27－24 桃山大
桃山大 36－24 大教大
桃山大 22－18 滋賀大
奈教大 30－20 大府大
奈教大 29－23 立命大
奈教大 30－25 大教大
奈教大 26－21 滋賀大
大府大 29－26 立命大
大府大 33－29 大教大
大府大 28－19 滋賀大
立命大 27－25 大教大
滋賀大 18－12 立命大
大教大 26－20 滋賀大

●順位 ①大阪市立大②桃山学院大③奈良教育大④大阪府立大⑤立命館大⑥大阪教育大⑦滋賀大

▼男子4部

追手門大 23－16 仏教大
追手門大 21－18 甲南大
龍谷大 21－16 追手門大
関外大 19－16 追手門大
追手門大 26－26 八代大
追手門大 27－23 京工大
仏教大 22－21 甲南大
仏教大 38－22 龍谷大
仏教大 18－18 関外大
仏教大 36－25 八代大
京工大 21－20 仏教大
甲南大 28－23 龍谷大
甲南大 24－16 関外大
甲南大 23－23 八代大
甲南大 21－18 京工大
龍谷大 21－18 関外大
八代大 36－25 龍谷大
龍谷大 28－22 京工大
関外大 27－27 八代大
関外大 27－24 京工大
京工大 25－24 八代大

●順位 ①追手門学院大②仏教大③甲南大④龍谷大⑤関西外語大⑥八代学院大⑦京都工芸繊維大

▼男子5部A

大外大 31－22 大工大
大外大 34－24 大薬大
大外大 34－24 姫工大
大外大 37－18 大歯大
大工大 38－24 大薬大
大工大 32－17 姫工大
大工大 43－21 大歯大
大薬大 24－19 姫工大
大薬大 32－20 大歯大
姫工大 32－20 大歯大

●順位 ①大阪外語大②大阪工業大③大阪薬科大④姫路工業大⑤大阪歯科大

▼男子5部B

神船大 25－18 神院大
神船大 29－27 京府大
京外大 23－21 神船大
神船大 42－16 奈良大

神院大 33-29 京府大
京外大 22-19 神院大
奈良大 48-26 神院大
京府大 31-28 京外大
奈良大 35-17 京府大
京外大 30-28 奈良大

●順位 ①神戸商船大②神戸学院大③京都府立大④京都外語大⑤奈良大

▼女子2部

京女大 10-8 滋賀大
京女大 15-11 仏教大
京女大 14-9 関学大
京女大 16-8 京府大
京女大 20-9 大薬大
京女大 21-9 神戸大
滋賀大 12-11 仏教大
滋賀大 14-9 関学大
滋賀大 22-8 京府大
滋賀大 18-11 大薬大
滋賀大 14-7 神戸大
仏教大 13-10 関学大
仏教大 26-16 京府大
仏教大 15-11 大薬大
仏教大 21-7 神戸大
関学大 16-14 京府大
関学大 11-9 大薬大
関学大 11-3 神戸大
京府大 11-10 大薬大
京府大 18-11 神戸大
大薬大 14-5 神戸大

●順位 ①京都女子大②滋賀大③仏教大④関西学院大⑤京都府立大⑥大阪薬科大⑦神戸大

▼女子3部

奈女大 9-8 関大
奈女大 8-7 奈教大
奈女大 22-8 大外大
奈女大 12-6 大谷大
奈女大 7-7 園田女大
奈女大 16-7 関外大
関大 12-12 奈教大
関大 11-10 大外大
関大 13-8 大谷大
関大 23-8 園田女大
関大 12-6 関外大
奈教大 16-10 大外大
奈教大 12-12 大谷大
奈教大 26-9 園田女大
奈教大 23-8 関外大
大外大 14-10 大谷大
大外大 16-11 園田女大
大外大 14-13 関外大
大谷大 19-12 園田女大
大谷大 15-4 関外大
園田女大 14-8 関外大

●順位 ①奈良女子大②関西大③奈良教育大④大阪外語大⑤大谷女子大⑥園田学園女子⑦関西外語大

東北学生

▼男子2部

学院大工 27-19 東福大
秋田大 21-18 宮教大
東北大 34-16 日大工
日大工 30-26 学院大工
宮教大 44-22 東福大
東北大 31-11 秋田大
東北大 40-5 東福大
秋田大 26-20 日大工
宮教大 30-20 日大工
秋田大 29-20 東福大
東北大 27-13 宮教大
秋田大 24-16 学院大工
日大工 39-26 東福大

●順位 ①東北大②秋田大③宮城教育大④日大工学部⑤東北学院大工学部⑥東北福祉大

北信越学生

▼男子2部

福井大 29-12 金沢医大
新潟大 32-17 金沢美工大
金沢医大 23-13 北陸大
福井大 35-13 金沢美工大
新潟大 33-17 北陸大
福井大 31-3 北陸大
金沢医大 32-17 金沢美工大
福井大 38-19 新潟大
金沢美工大 23-15 北陸大
金沢医大 28-28 新潟大

●順位 ①福井大②新潟大③金沢医科薬科大④金沢美術工芸大⑤北陸大

中四国学生

▼男子2部

岡山大 30-14 徳島大
岡山大 19-10 高知大
岡山大 21-11 修道大
島根大 17-13 岡山大
島根大 32-20 徳島大
高知大 23-20 島根大
島根大 33-16 修道大
高知大 32-21 徳島大
高知大 21-19 修道大
修道大 21-17 徳島大

●順位 ①岡山大②島根大③高知大④修道大⑤徳島大

▼男子3部

香川大 34-12 近大呉工
香川大 43-7 岡山理大
香川大 20-15 徳山大
香川大 16-15 広島工大
徳山大 不戦勝 近大呉工
徳山大 45-11 岡山理大
徳山大 24-15 広島工大
広島工大 27-22 近大呉工
広島工大 26-11 岡山理大
近大呉工 30-10 岡山理大

●順位 ①香川大②徳山大③広島工大④岡山理大⑤近大呉工学部

東海学生

▼男子2部

名工大 27-24 名学大
愛教大 21-20 名学大
愛教大 25-18 静岡大
愛教大 25-12 名工大
静岡大 25-24 日福大
静岡大 17-16 三重大
静岡大 29-19 名工大
日福大 24-18 名工大
日福大 24-19 三重大
静岡大 29-17 名学大
名学大 29-22 日福大
名工大 23-19 滋賀大
愛教大 31-22 日福大
名学大 28-18 三重大
愛教大 34-17 三重大

●順位 ①愛知教育大②静岡大③名古屋学院大④日本福祉大⑤名古屋工大⑥三重大

▼男子3部

岐阜大 40-11 愛医大
愛知大 35-13 常葉大
愛工大 21-21 愛医大
滋賀大 39-12 皇学大
愛工大 17-17 皇学大
愛医大 29-15 常葉大
愛知大 37-16 愛医大
滋賀大 26-17 岐阜大
常葉大 28-28 愛工大
愛工大 36-18 皇学大
滋賀大 23-18 愛医大
常葉大 21-20 皇学大
岐阜大 36-11 皇学大
愛知大 38-14 愛工大
滋賀大 38-19 常葉大
愛知大 31-19 岐阜大
愛医大 24-17 皇学大
岐阜大 24-19 愛工大
愛知大 25-15 滋賀大
滋賀大 不戦勝 愛工大
岐阜大 ｜ 常葉大

●順位 ①愛知大②滋賀大③岐阜大④愛知医大⑤愛知工大⑥皇学館大

▼女子2部

日福大 26-14 静岡大
三重大 17-9 静岡大
日福大 30-12 静岡大
日福大 24-8 三重大
三重大 13-12 日福大
三重大 13-10 静岡大

●順位 ①日本福祉大②三重大③静岡大

各地の記録から

第2回千葉県高校ジュニア選手権

（8月27〜29日）

〈男子〉

▼1回戦
佐原 キケン 流山東
船橋法典 13－5 生浜
幕張北 23－14 東京学館
東京学館浦安 18－8 船橋西
八千代 15－8 木更津
松戸秋山 21－8 鶴舞商
東葛飾 20－12 拓大紅陵
柏南 25－9 小金
市川 15－12 芝工大柏
白井 27－12 千葉明徳
千葉南 20－6 上総
我孫子 10－8 泉
市立松戸 25－7 市原
松戸六実 21－14 若松
渋谷学園幕張 キケン 流山中央
船橋旭 16－15 二松学舎沼南

▼2回戦
佐原 20－13 船橋法典
東京学館浦安 28－9 幕張北
松戸秋山 11－7 八千代
柏南 16－11 東葛飾
市川 26－6 白井
我孫子 13－10 千葉南
松戸六実 16－11 市立松戸
船橋旭 17－7 渋谷学園幕張

▼3回戦
佐原 17－10 東京学館浦安
柏南 21－8 松戸秋山
市川 18－3 我孫子
松戸六実 18－11 船橋旭

▼準決勝
柏南 12－11 佐原
市川 15－10 松戸六実

▼3位決定戦
松戸六実 12－9 佐原

▼決勝
柏南 16（6－6、10－4）10 市川

〈女子〉

▼1回戦
佐原女 キケン 流山東
白井 12－10 松戸六実
生浜 キケン 流山中央
泉 キケン 御宿家政
柏南 18－7 佐原
東葛飾 18－3 千葉明徳
市立松戸 19－5 若葉看護
東邦大付東邦 27－1 松戸聖徳短大付

▼2回戦
佐原女 27－4 白井
泉 26－7 生浜
柏南 21－8 東葛飾
東邦大付東邦 24－3 市立松戸

▼準決勝
佐原女 9－5 泉
東邦大付東邦 17－3 柏南

▼3位決定戦
泉 13－5 柏南

▼決勝
佐原女 15（10－4、5－2）6 東邦大付東邦

昭和59年度関東実業団選手権大会

（9月1、2日）

〈男子〉

▼1回戦
日進商会（神奈川） 28－7 東京電力千葉（千葉）
三井石油化学（千葉） 19－13 日本発条（神奈川）
東京重機（東京） 25－19 日産石油化学（千葉）
出光千葉（千葉） 26－18 日本原子力研究所（茨城）

▼敗者復活1回戦
日本発条 35－11 東京電力千葉
日産石油化学 24－22 日本原子力研究所

▼敗者復活2回戦
日本発条 28－14 日本石油化学

▼2回戦
丸善石油千葉（千葉） 18－16 自衛隊久里浜（神奈川）
三景（東京） 36－12 三井石油化学
中村荷役（東京） 28－12 東京重機
セントラル自動車（東京） 35－20 海自下総（千葉）

▼3回戦
大崎電気（東京） 43－6 日進商会
三景 24－13 丸善石油千葉
中村荷役 38－19 出光千葉
三陽商会（東京） 27－21 セントラル自動車

▼準決勝
大崎電気 26－22 三景
三陽商会 31－21 中村荷役

▼決勝
大崎電気 32（14－12、18－9）21 三陽商会

秋田県南高校新人大会

（9月8、9日）

〈男子〉

▼1回戦
大曲 22－17 横手
湯沢 30－5 稲川

▼2回戦
大曲農 23－20 大曲
湯沢 29－20 羽後

▼3位決定戦
羽後 22－21 大曲

▼決勝
湯沢 17（9－5、8－11）16 大曲農

〈女子〉

▼1回戦
稲川 11－5 六郷

▼2回戦
大曲農 30－5 横手東
湯沢 29－0 稲川

▼3位決定戦
横手東 23－4 稲川

▼決勝
大曲農 16（6－6、10－2）8 湯沢

第37回千葉県民体育大会

（9月29、30日）

〈男子〉

▼1回戦
東葛飾郡 39－22 君津市
習志野市 33－16 流山市
佐原市 38－12 木更津市
松戸市 34－9 香取郡
八千代市 35－22 千葉市

▼2回戦
市原市 27－25 東葛飾郡
佐原市 24－24 3PTC2 習志野市
柏市 36－24 松戸市
市川市 28－25 八千代市

▼準決勝
市原市 32－23 佐原市
市川市 22－21 柏市

▼決勝
市川市 29（14－14、15－14）28 市原市

〈女子〉

▼1回戦
香取郡 11－6 流山市
佐原市 キケン 柏市
千葉市 33－4 松戸市

▼準決勝
香取郡 9－6 市川市
千葉市 30－4 佐原市

▼決勝
千葉市 22（10－1、12－3）4 香取郡

第2回千葉県秋季リーグ戦

（10月7日、14日）

〈男子1部〉
佐原ク 28－21 市原ク
小金ク 28－18 流山中央ク
市原ク 24－21 市川FOG
佐原ク 19－14 小金ク
市川FOG 21－19 流山中央ク
佐原ク 21－21 市川FOG
小金ク 34－23 市原ク
佐原ク 21－13 流山中央区
小金ク 27－20 市川FOG
市原ク 21－19 流山中央ク

〔順位〕①佐原クラブ②小金クラブ③市原クラブ④市川FOG⑤流山中央ク

〈男子2部〉

○Aグループ
清水ク 16－11 道野辺ク
上総ク 13－12 道野辺ク
清水ク 17－9 上総ク

○Bグループ
柏南ク 13－7 柏ク
ステイラーズ 9－9 柏ク
柏南ク 13－12 ステイラーズ

▼上位2チーム順位決定リーグ
ステイラーズ 12－0 上総ク

柏南ク 15－10 上総ク
清水ク 18－15 上総ク
清水ク 16－10 柏南ク
ステイラーズ 13－13 清水ク
ステイラーズ 18－10 柏南ク

〔順位〕①ステイラーズ②清水クラブ③柏南クラブ④上総クラブ

〈女子〉

水郷ク 15－14 手児奈ク

第20回東海実業団選手権

（10月14、28）

〈男子〉

▼1回戦

豊田工機 35－12 三洋電機
豊田自動織機 33－4 日本耐酸壜
日本電装 28－14 日本碍子
豊田合成 24－7 パイロットインキ

▼2回戦

新日鉄名古屋 25－15 豊田工機
本田技研 22－16 豊田自動織機
爽風会
トヨタ自動車 31－19 日本電装
サンケミカル 20－19 豊田合成

▼3回戦

本田技研 27－11 新日鉄名古屋
爽風会
トヨタ自動車 38－13 サンケミカル

▼準決勝

大同特殊鋼 23－5 本田技研
爽風会
本田技研工業 29－14 トヨタ自動車

▼決勝

大同特殊鋼 19（7－10、12－8）18 本田技研工業

〈女子〉

▼リーグ戦

プラザー工業 24－16 ジャスコB
ジャスコA 29－14 ジャスコB
ジャスコA 22－14 プラザー工業

〔順位〕①ジャスコA②プラザー工業③ジャスコB

第33回奈良県秋季大会

（10月28日）

〈一般、学生の部〉

▼1回戦

生駒ク 29－12 畝傍ク
天理大B 36－7 奈良高専
奈良ク 17－15 橿原ク

▼準決勝

天理大A 28－14 生駒ク
天理大B 18－16 奈良ク

▼決勝

天理大A 23（13－11、10－4）15 天理大B

第22回東京都選手権

（10月28日、11月3、4日）

〈男子〉

▼1回戦

東京重機 36－4 石神井ク
日体大A キケン 亜細亜大B
駒沢大 20－16 東京教員
神代クA 18－16 サンク
日体大C 33－10 理窓会
中村荷役運輸 32－10 東京農工大
ロイバーズ 18－17 南ク
中央大B 29－19 神代クB
日体大B 23－18 中央大附OB
日体大B 28－15 井草ク
国士館ク 25－15 武蔵工大
桜門ク 19－13 ラージェスト
東京理科大 29－12 MRサンヨー
球駿会 キケン 亜細亜大A
神楽坂会 30－7 リクルート

▼2回戦

駒沢大 23－19 日体大A
神代クA 18－17 日体大C
ロイバーズ キケン 中村荷役運輸
日体大B 40－20 中央大B
日本大B 25－13 国士館ク
桜門ク 23－18 東京理科大
神楽坂会 19－15 球駿会

▼3回戦

東京重機 22－19 駒沢大
神代クA 25－13 ロイバーズ
日本大B 29－18 日体大B
桜門ク 28－22 神楽坂会

▼準決勝

東京重機 22－17 神代クA
桜門ク 23－22 日本大B

▼決勝

桜門ク 23－22 東京重機

〈女子〉

▼1回戦

東女体大B キケン 日女体大A
武蔵野クB 20－8 日体大C
シェパーズ 38－4 YMCA A
日体大B 19－10 東京重機OG
武蔵野クA キケン 日女体大C
東女体大A 13－11 日女体大B
駒沢ク 10－4 MISSサンヨ

▼2回戦

日体大A 32－10 東女体大B
シェパーズ 18－11 武蔵野クB
日体大B 26－14 武蔵野クA
東女体大A 33－1 駒沢ク

▼準決勝

日体大A 33－16 シェパーズ
東女体大A 20－13 日体大B

▼決勝

東女体大A 27－24 日体大A

第11回千葉県総合選手権

（10月27、28、11月3、4日）

〈一般男子〉

▼1回戦

鶴舞商高 12－0 木更津ク
海自下総 25－7 東京学館高
若松高B 15－13 八千代高
若潮クA 28－20 若松高A
国際武道大 2[illegible]－8 市原高
我孫子高 19－18 日産石油
市原ク 23－12 東京学館
浦安高
我孫子高A 12－0 道野辺ク

▼2回戦

千葉教員 42－7 鶴舞商高
海自下総 12－0 柏ク
若松高B 29－10 房総学園高
若潮ク 19－16 市川FOG
佐原高 23－1 国際武道大
三井石油化学 32－15 我孫子高B
市原ク 25－19 流山中央高
佐原ク 26－12 我孫子高A

▼準々決勝

千葉教員 31－15 海自下総
若潮ク 23－22 若松高B
三井石油化学 18－15 佐原高
佐原ク 24－13 市原ク

▼準決勝

千葉教員 32－15 若潮ク
佐原ク 20－11 三井石油化学

▼決勝

千葉教員 29（17－6、12－10）16 佐原ク

〈一般女子〉

▼1回戦

流山中央高 18－6 佐原高
泉高 21－9 水郷ク
佐原女高 12－0 佐原メッツ

▼準決勝

千葉ク 23－6 流山中央高
泉高 8－7 佐原女高

▼決勝

千葉ク 21（11－6、10－5）11 泉高

〈中学男子〉

▼1回戦

福栄中A 12－0 富岡中
葛飾中 11－6 東邦中B
福栄中B 20－5 柏三中
東邦中A 38－7 見明川中

▼準決勝

福栄中A 18－7 葛飾中
東邦中A 13－10 福栄中B

▼決勝

東邦中A 24（12－10、12－4）14 福栄中A

〈中学女子〉

▼1回戦

葛飾中 12－0 湖北台中
福栄中 19－4 佐原二中
市川二中 11－8 大栄中

▼準決勝

昭和学院中 14－7 葛飾中
福栄中 16－1 市川二中

▼決勝

昭和学院中 11（5－3、6－5）8 福栄中

和歌山県秋季選手権

（11月3、4日）

〈一般男子〉

▼1回戦

耐久高 17－14 桐蔭一年
桐蔭二年 18－15 応神ク
黒潮ク 25－9 桐蔭ク
箕島高 25－24 近大附高

▼2回戦

御坊ク 26－18 耐久高
県和商高 23－13 那賀ク
市和商ク 25－18 笠田高
那賀高 24－10 桐蔭二年
県和商ク 28－15 黒潮ク
笠田ク 25－23 御坊商工
市和商高 12－11 粉河高
住友金属 25－17 箕島高

▼3回戦

御坊ク 20－16 県和商高
那賀高 17－9 市和商ク
県和商ク 24－20 笠田ク
住友金属 25－7 市和商高

▼準決勝
御坊ク 24－22 那賀高
県和商ク 27－19 住友金属
▼決勝
御坊ク 23（11－10、12－9）19 県和商ク

〈一般女子〉
▼1回戦
粉河三年 16－10 御坊商工
粉河高 22－3 那賀高
県和商ク 10－8 笠田高
▼準決勝
粉河三年 15－7 県和商高
粉河高 15－9 県和商ク
▼決勝
粉河高 11（5－4、6－5）9 粉河三年

〈中学男子〉
○予選Aゾーン
▼1回戦
岩出中 17－9 湯浅中
白馬中 28－4 金屋中
▼ゾーン1位決定戦
岩出中 14－12 白馬中
▼ゾーン2位決定戦
白馬中 28－17 湯浅中
○予選Bゾーン
▼リーグ戦
那賀中 24－1 貴志川中
打田中 19－19 貴志川中
那賀中 30－12 打田中
▼準決勝
岩出中 23－18 打田中
那賀中 19－17 白馬中
▼決勝
那賀中 15（7－5、8－9）14 岩出中

〈中学女子〉
▼リーグ戦
桃山中 14－7 那賀中
岩出中 19－6 貴志川中
桃山中 12－9 金屋中
岩出中 18－6 那賀中
金屋中 7－4 貴志川中
岩出中 17－6 桃山中
那賀中 6－3 貴志川中
岩出中 11－8 金屋中
桃山中 9－8 貴志川中
金屋中 12－12 那賀中
〔順位〕①岩出中②桃山中

第61回愛知県実業団リーグ戦

▼1部
豊田織機 18－15 日本電装
大同特殊鋼 41－15 日本電装
大同特殊鋼 39－16 新日鉄名古屋
トヨタ車体 26－22 豊田織機
トヨタ自動車 32－21 新日鉄名古屋
トヨタ車体 34－20 日本電装
豊田織機 20－20 新日鉄名古屋
大同特殊鋼 39－18 トヨタ車体
トヨタ自動車 30－24 日本電装
トヨタ車体 42－17 新日鉄名古屋
トヨタ自動車 31－16 豊田織機
日本電装 24－20 新日鉄名古屋
大同特殊鋼 34－15 トヨタ自動車
大同特殊鋼 43－4 豊田織機
トヨタ自動車 28－27 トヨタ車体
〔順位〕①大同特殊鋼②トヨタ自動車③トヨタ車体④豊田織機⑤日本電装⑥新日鉄名古屋
▼2部
豊田合成 29－14 日本碍子
豊田工機 36－8 パイロットインキ
アイシン精機 22－19 東海理化
豊田合成 28－12 ブラザー工業
豊田工機 28－18 アイシン精機
パイロットインキ 13－11 東海理化
日本碍子 21－10 ブラザー工業
パイロットインキ 32－18 アイシン精機
豊田工機 37－11 東海理化
東海理化 13－12 ブラザー工業
豊田合成 37－13 パイロットインキ
豊田工機 33－22 日本碍子
日本碍子 19－18 パイロットインキ
アイシン精機 22－17 ブラザー工業
豊田工機 26－21 豊田合成
〔順位〕①豊田工機②豊田合成③日本碍子④パイロットインキ⑤アイシン精機⑥ブラザー工業⑦東海理化
▼入れ替え戦
新日鉄名古屋 25－15 豊田工機

茨城県総合選手権

（11月3、4日）
〈男子〉
▼1回戦
茨苑ク 30－15 太田一高
竹園高 28－18 桐ノ葉ク
日本原研 25－17 麻生高
大和ク 19－11 日立一高
自衛隊勝田 29－12 土浦工高
筑波大 35－13 動燃東海
▼2回戦
茨苑ク 29－20 八郷高
竹園高 23－11 日本原研
自衛隊勝田 22－8 大和ク
筑波大 30－12 茨城大
▼準決勝
茨苑ク 28－24 竹園高
筑波大 34－8 自衛隊勝田
▼3位決定戦
竹園高 20－13 自衛隊勝田
▼決勝
筑波大 18（10－9、8－8）17 茨苑ク

〈女子〉
▼1回戦
竜ケ崎二高 9－5 高萩高
鉾田二高 13－10 八郷高
潮来高 23－3 筑波シバーズ
茨城大 18－10 那珂湊二高
高萩高OG 18－10 太田二高
結城二高 29－5 波崎高
▼2回戦
水海道二高 20－4 竜ケ崎二高
鉾田二高 15－14 潮来高
茨城大 27－6 高萩高OG
結城二高 15－13 麻生高
▼準決勝
水海道二高 19－5 鉾田二高
茨城大 16－7 結城二高
▼3位決定戦
結城二高 13－8 鉾田二高
▼決勝
水海道二高 17（9－2、8－6）8 茨城大

第14回近畿クラブ対抗選手権

（11月3、4日）
〈男子〉
▼リーグ戦
雪陵ク 12－9 東山ク
和商ク 12－7 武庫工ク
生駒ク 19－11 東山ク
雪陵ク 18－6 和商ク
東山ク 18－14 武庫工ク
雪陵ク 14－12 生駒ク
東山ク 16－12 和商ク
雪陵ク 23－7 武庫工ク
生駒ク 12－10 和商ク
武庫工ク 14－13 生駒ク
〔順位〕①雪陵ク②生駒ク③東山ク④和商ク⑤武庫工ク

〈女子〉
▼リーグ戦
わかくさク 5－5 大阪コスモス
古都ク 13－8 風見鶏ク
古都ク 12－9 わかくさク
大阪コスモス 14－12 風見鶏ク
わかくさク 13－8 風見鶏ク
大阪コスモス 14－5 古都ク
〔順位〕①古都ク②わかくさク③大阪コスモス④風見鶏ク

山形県高校新人戦

（11月4日）
〈男子〉
▼決勝トーナメント1回戦
寒河江 18－3 東根工
新庄工 29－5 山形工
▼準決勝
真室川 23－15 寒河江
大石田 21－20 新庄工
▼決勝
真室川 32（16－7、16－8）15 大石田

〈女子〉
▼決勝リーグ
日大山形 17－9 米沢女
竹田女 16－8 米沢女
日大山形 21－8 竹田女
〔順位〕①日大山形②竹田女③米沢女

第39回岡山県高校新人大会

（11月3、4、10日）
〈男子〉
▼1回戦
吉備 12－0 津山商
東岡工 12－0 高梁工
玉野光南 25－19 朝日
倉敷工 20－11 大安寺
玉野 25－8 和気閑谷
児島 17－12 邑久
一宮 23－12 岡山工
倉敷天城 25－9 津山工
西大寺 21－12 青陵

操山 17－10 関西
津山 14－4 金川
古城池 15－11 落合
倉敷商 22－13 水島工
倉敷南 26－13 矢掛

▼2回戦
総社 13－5 吉備
玉野光南 15－12 東岡山工
倉敷工 13－12 玉野
児島 12－10 一宮
倉敷天城 15－8 西大寺
操山 10－10 津山（2 PTC 1）
倉敷商 25－9 古城池
倉敷工 20－12 芳泉

▼3回戦
玉野光南 16－15 総社
倉敷工 24－7 児島
倉敷天城 34－10 操山
倉敷商 21－14 倉敷南

▼準決勝
倉敷工 31－19 玉野光南
倉敷天城 23－11 倉敷商

▼決勝
倉敷天城 25（14－12、11－4）16 倉敷工

〈女子〉

▼1回戦
青陵 12－0 津山東
倉敷南 12－10 備前東
総社 19－3 玉野光南
操山 17－1 金川
津山商 11－5 古城池

▼2回戦
西大寺 37－3 青陵
大安寺 14－3 倉敷南
真備 22－12 津山
総社 14－7 倉敷商
落合 11－3 操山
一宮 4－3 芳泉
児島 17－12 倉敷中央

▼3回戦
倉敷天城 18－10 津山商
西大寺 16－12 大安寺
総社 10－4 真備
落合 15－10 一宮
児島 13－10 倉敷天城

▼準決勝
西大寺 10－8 総社
落合 14－11 児島

▼決勝
落合 16（6－6、10－8）14 西大寺

富山県高校新人大会

（11月3、4、11日）

〈男子〉

▼1回戦
八尾 19－13 富山中部
高岡商 22－13 富山工
氷見 32－18 富山商
水橋 15－13 富山南
小杉 33－12 富山

▼2回戦
高岡 39－17 八尾
高岡商 18－17 富山高専
呉羽 22－9 新湊
氷見 32－14 雄山
水橋 12－11 富山東
高岡向陵 30－9 伏木
大沢野工 29－18 高岡南
二上工 23－19 小杉

▼3回戦
高岡 37－11 高岡商
氷見 20－11 呉羽
高岡向陵 42－4 水橋
二上工 20－18 大沢野工

▼準決勝
高岡 30－20 氷見
高岡向陵 39－7 二上工

▼決勝
高岡向陵 35（20－13、15－13）26 高岡

〈女子〉

▼1回戦
高岡女 16－14 富山女短付
高岡商 14－8 高岡向陵
富山北部 14－3 新湊
有磯 26－2 富山女

▼2回戦
高岡 キケン 雄山
高岡商 16－7 高岡
高岡第一 13－10 富山北部
有磯 27－4 小杉

▼準決勝
高岡女 14－13 高岡
有磯 29－3 高岡第一

▼決勝
有磯 12（6－2、6－3）5 高岡商

富山県秋季選手権

（11月4、11日）

〈男子〉

▼1回戦
射水ク 23－9 二上ク
氷見クB 29－17 富山大
向陵ク 26－12 般若ク
氷見クA 31－11 八尾ク

▼2回戦
富山教員 23－17 射水ク
氷見クB キケン 北嶺会
高商ク 19－17 向陵ク
氷見クA 21－13 想球会

▼準決勝
富山教員 35－26 氷見クB
氷見クA 29－8 高商ク

▼決勝
氷見クA 29（15－9、14－10）19 富山教員

〈女子〉

▼1回戦
想球会 [illegible]－6 高女OG

▼決勝
桜球会 23（11－3、12－2）5 想球会

佐賀県高校新人大会

（11月18日）

〈男子〉

▼1回戦
佐賀農 27－20 神埼

▼準決勝
佐賀東 19－16 神埼農
佐賀農 22－13 佐賀西

▼決勝
佐賀農 32（14－12、18－9）21 佐賀東

〈女子〉

▼1回戦
神埼農 34－1 嬉野商
佐賀東 15－4 東松浦

▼準決勝
神埼農 21－8 佐賀女
佐賀東 12－9 神埼

▼決勝
神埼農 18（4－7、14－1）8 佐賀東

佐賀県中学新人大会

（11月18日）

〈男子〉
基山 12（8－6、4－4）10 神埼
基山 16（7－11、9－2）13 城北

〈女子〉
多久中央 16（12－5、4－3）8 神埼

日・中・韓 三国対抗高校生国際親善大会

全日本高校選抜が3戦全勝

韓国（東亜高校）、中国（上海選抜）を迎えての高校生三国対抗国際親善大会が、12月21日から23日までの3日間、大阪府体育館、大阪中央体育館で開催された。

日本からは、20年ぶりに編成されたという全日本高校選抜と大阪の此花学院高校が参加、4チームによるリーグ戦が行なわれた。全日本高校選抜は、インターハイの優勝校・浦和実業、国体の優勝校・久留米工大附高校などを中心に編成、平均身長183㎝と高さのプレーを見せて他を圧倒、3戦全勝でこの大会1位となった。

此花学院は、地元の声援を受けて善戦、韓国、中国ともに引き分け、全日本高校選抜には敗れたものの2引き分け1敗で第3位。

韓国・東亜高は、最終戦の全日本高校選抜相手に前半をリード、後半一気に突き放されたものの1、2年生主体のチームでこれだけやれたということで、金コーチも満足そうだった。

中国・上海選抜は、まだハンドボールの技術が未成熟な感じで、1引き分け2敗と第4位に終わった。しかし、日・中・韓のアジア三国が、こうしたジュニアの段階で交流を深め、ヨーロッパに追いつき追い越せで切差琢磨を深めることは大いに意義あることだろう。

試合結果

◆12月21日（大阪府体育館）

		前半／後半		
此花学院	29	14－15／15－14	29	韓国東亜高
全日本高校選抜	27	18－10／9－11	21	中国上海選抜

◆12月22日（大阪中央体育館）

		前半／後半		
全日本高校選抜	32	17－12／15－16	28	此花学院
韓国東亜高	38	23－14／15－12	26	中国上海選抜

◆12月23日（大阪中央体育館）

		前半／後半		
此花学院	20	10－10／10－10	20	中国上海選抜
全日本高校選抜	38	22－10／16－17	27	韓国東亜高

◆12月21日・第1試合◆

得	〔此花〕		〔東亜〕	得
0	岡田	GK	周一	0
0	岩上	GK		
9	西岡克	FP	姜相昌	11
0	泉	FP	鄭富用	0
4	吉川	FP	安昌煥	0
1	金沢	FP	金仁右	3
0	小牧	FP	金一雨	0
0	間戸場	FP	張仁翼	4
2	平山	FP	尹瑛渉	0
0	小西	FP	徐寅洙	5
3	松永	FP	朴宗相	3
0	具志	FP	李相福	3
9	西岡和	FP	裵炳憲	0
1	西村	FP		
0	田中	FP		
0	渡辺	FP		
		審・大原・浜野		
29	(1)	PT	(5)	29

◆12月21日・第2試合◆

得	〔全日本〕		〔上海〕	得
0	高橋	GK	王遐	0
0	石井	GK	徐耀忠	0
7	甲斐	FP	洪永康	0
1	坂口	FP	汪毅	2
0	野村	FP	徐駿	2
0	長嶺	FP	陳選培	3
0	野中	FP	陶杰	8
0	尾沼	FP	宗明	1
1	小野	FP	陳鴻	5
11	新井	FP	朱国強	0
0	中塚	FP	从林盛	0
0	村田	FP	邵隽	0
1	平野	FP	金涛	0
1	君島	FP	周斌	0
3	滝沢	FP		
2	石丸	FP		
0	北村	FP		
		審・東・新村		
27	(4)	PT	(1)	21

◆12月22日・第1試合◆

得	〔全日本〕		〔此花〕	得
0	高橋	GK	岡田	0
0	石井	GK	岩上	0
6	甲斐	FP	西岡克	8
0	坂口	FP	泉	1
0	野村	FP	吉川	3
0	長嶺	FP	金沢	6
0	野中	FP	小牧	0
0	尾沼	FP	間戸場	3
0	小野	FP	平山	0
5	新井	FP	小西	1
0	中塚	FP	松永	0
5	村田	FP	具志	0
0	平野	FP	西岡和	5
0	君島	FP	西村	1
9	滝沢	FP	田中	0
7	石丸	FP	渡辺	0
0	北村	FP		
		審・東・新村		
32	(0)	PT	(5)	28

◆12月22日・第2試合◆

得	〔東亜〕		〔上海〕	得
0	周一	GK	王遐	0
		GK	徐耀忠	0
12	姜相昌	FP	洪永康	0
1	鄭富用	FP	汪毅	3
3	安昌煥	FP	徐駿	2
6	金仁右	FP	陳選培	1
0	金一雨	FP	陶杰	10
0	張仁翼	FP	宗明	3
4	尹瑛渉	FP	陳鴻	7
6	徐寅洙	FP	朱国強	0
3	朴宗相	FP	从林盛	0
3	李相福	FP	邵隽	0
0	裵炳憲	FP	金涛	0
		FP	周斌	0
		審・大原・北山		
38	(6)	PT	(3)	26

◆12月23日・第1試合◆

得	〔此花〕		〔上海〕	得
0	岡田	GK	王遐	0
0	岩上	GK	徐耀忠	0
5	西岡克	FP	洪永康	1
0	泉	FP	汪毅	6
2	吉川	FP	徐駿	3
2	金沢	FP	陳選培	1
0	小牧	FP	陶杰	6
0	間戸場	FP	宗明	0
4	平山	FP	陳鴻	3
0	小西	FP	朱国強	0
1	松永	FP	从林盛	0
0	具志	FP	邵隽	0
6	西岡和	FP	金涛	0
0	西村	FP	周斌	0
0	田中	FP		
0	渡辺	FP		
		審・東・吉田		
20	(5)	PT	(1)	20

◆12月23日・第2試合◆

得	〔全日本〕		〔東亜〕	得
0	高橋	GK	周一	0
0	石井	GK		
10	甲斐	FP	姜相昌	10
1	坂口	FP	鄭富用	1
0	野村	FP	安昌煥	1
0	長嶺	FP	金仁右	2
0	野中	FP	金一雨	0
0	尾沼	FP	張仁翼	5
0	小野	FP	尹瑛渉	0
11	新井	FP	徐寅洙	4
0	中塚	FP	朴宗相	2
2	村田	FP	李相福	2
0	平野	FP	裵炳憲	0
0	君島	FP		
5	滝沢	FP		
9	石丸	FP		
0	北村	FP		
		審・北山・大原		
38	(1)	PT	(4)	27

［2月～3月のイベント］

◈第16回全日本実業団男子トーナメント大会
（2月9日～11日・京都府立体育館）
◈第8回全国高校選抜大会
（3月24日～28日・愛知県体育館）

告知板

強化委員会から

昨年11月号でお知らせしたように全日本男子の監督には野田清氏（大同特殊鋼）が就任、新しいコーチングスタッフ、及び全日本のメンバーが決定した。

スタッフは、ヘッドコーチに津川昭氏（湧永製薬・33歳）、アシスタントコーチに佐藤要二氏（本田技研鈴鹿・35歳）、吹上明氏（日新製鋼・33歳）、本田洋氏（堺工業高校教諭・37歳）、山本伸二氏（湧永製薬・32歳）、福井秀人氏（湧永製薬・32歳）、蒲生晴明氏（大同特殊鋼・30歳）、柳川清氏（大同特殊鋼・33歳）、新井田司氏（日大コーチ・28歳）の8氏が選任された。尚、佐藤、吹上の両氏は全日本Bのコーチも兼任する。

メンバーは、左表のように決定、ロス五輪のメンバーからは僅か5人しか残っておらず、一気に若返った〝新生全日本〟である。

新生全日本は、早速10月から毎月1回の合宿を行ない、選手選考、強化を行なっている。

また、井薫氏（立石電機）が監督する全日本女子も若返ったメンバーを決定、やはり〝新生全日本〟でスタートする。

普及委員会から

(財)日本ハンドボール協会既存の有資格指導者の新制度への移行措置について下記の通り実施する。

1 スポーツトレーナー

①スポーツトレーナー1級資格者のコーチへの移行。

ア．有資格者で(財)日本ハンドボール協会及び都道府県ハンドボール協会で現在活動中の者については全面的に移行の優遇措置を講ずる。

イ．競技団体選出の有資格者で現在競技団体での活動のない者については指導実績、資質の適正を(財)日本ハンドボール協会で書類審査（活動報告書）して移行措置を講ずる。

ウ．都道府県体育協会選出の有資格者で現在競技団体での活動のない者については指導実績、活動状況、資質の適正を(財)日本ハンドボール協会で書類審査（活動報告書）して移行措置を講ずる。

②スポーツトレーナー2級有資格者のコーチへの移行。

ア．共通教科への受講を免除。

イ．専門教科を受講し、資格取得検定試験に合格した者は移行措置を講ずる。

〈全日本男子〉

氏名	年齢	身長	所属
◈GK			
井藤 英忠	25歳	185cm	湧永製薬
上村 幸彦	25	178	大同特殊鋼
◈FP			
西山 清	25	181	日新製鋼
藤井 泉	25	181	日新製鋼
高木 俊二	25	185	日新製鋼
市川 修	24	177	大同特殊鋼
立木 浩二	24	183	本田技研鈴鹿
高村 誠一	23	188	大同特殊鋼
玉村 健次	23	182	わかくさクラブ
山本 興道	23	183	大崎電気
田口 隆	23	182	本田技研鈴鹿
田口 勝利	23	188	大同特殊鋼
荷川取義浩	22	178	中部大
朝生 和光	22	175	筑波大
内藤 裕治	22	183	日本大
内藤 浩樹	21	178	国士舘大
平林 義規	21	183	慶応大
佐久間良幸	21	190	大阪体育大
藤井 孝一	20	186	法政大
首藤 信一	19	186	大崎電気

〈全日本男子B〉

氏名	年齢	身長	所属
◈GK			
矢内 浩	24歳	188cm	大崎電気
秋吉 哲男	19	190	大同特殊鋼
橋本 行弘	19	185	本田技研鈴鹿
◈FP			
楢原 隆雄	25	189	湧永製薬
原田 新治	25	184	湧永製薬
田中 保彦	24	179	大同特殊鋼
中川 英二	23	176	湧永製薬
甲斐 幸平	23	173	日新製鋼
実方 智	23	182	三陽商会
加藤 元規	22	187	早 大
小間 洋一	22	181	大阪体育大
川田 和彦	21	181	トヨタ自動車
武田 大伸	21	186	日 大
名取 一成	20	188	大同特殊鋼
今村 伸吾	20	186	中部大
明石 康宏	19	184	日本体育大
斎藤慎太郎	19	187	日本体育大
橋本二次夫	19	182	日本体育大
山野 忠一	19	185	本田技研鈴鹿
上山 和弘	19	187	日鉄建材工業

〈全日本女子〉

氏名	年齢	身長	所属
◈GK			
葛生 豊子	22歳	167cm	日立栃木
山口 妙美	18	168	ジャスコ
◈FP			
近藤ひろ子	23	155	立石電機
前田 重子	22	161	日立栃木
寺沢 路子	22	167	ジャスコ
岩村 英子	22	173	立石電機
小池 宏子	22	171	東京女子体育大
池上 由美	21	158	大阪体育大
山岸 和子	21	173	日立栃木
吉岡 典子	21	172	日本体育大
若水真由美	20	156	大和銀行
小口 智子	20	162	日本体育大
武藤由起子	20	168	日本ビクター
野嶋ちえみ	20	166	立石電機
下條千恵子	20	169	日本ビクター
時實 良枝	20	168	大崎電気
沖山千恵子	20	167	大崎電気
山内 香代	19	170	立石電機
市川 千恵	19	168	東京重機

賛助会の輪をもっと広げよう

――新会員の紹介をお願いします――

ハンドボールはどうして民放テレビに映らないのか？ハンドボール愛好者がいつも口にする言葉です。そうです。ハンドボールが電波に乗るのは、NKH教育テレビの全日本総合とスポーツニュースぐらいです。民放の放映には何千万円という金がかかります。そのためのスポンサーがつくかつかないかは視聴率、観客動員次第です。日本協会でも、スポンサーの交渉はしていますが、どちらがにわとりか卵かはともかく、並行してハンドボールの試合を見ていただくファンを多く集めていただくことが大切です。

賛助会の年度は、暫定的に1月から12月までとなっています。昭和59年度の決算は次号でさせていただきますが、賛助会費収入から機関誌増刷及び送料等の経費を控除した残金は、ナショナルチームの強化や普及事業などの財源にあてられています。

選手強化には相当な金がかかるうえ、ロス・オリンピックで痛感されたように若手選手（高校生から中学生まで）の育成強化にはこれまで以上に金がかかります。

また、日本協会は、小学校に対するハンドボールり普及を当面の最大の課題としています（これが頂点強化にもつながります。）それが親子ハンドボールにつながって、ハンドボールの輪はますます大きくなっていく……。

どうか賛助会の皆さんも、そのような輪の核となって、その輪をもっともっと大きくしていって欲しいと思います。お一人が2名、3名の知人を誘っていただければ、会員の数は直ちに数倍になります。

会員の特典として、特別頒価のビデオの制作監修が具体化しつつあります。「賛助会だより」は、当分この「賛助会通信」で代えさせていただきます。いろいろなご意見をお寄せください。

また、賛助会の幹事（パーティーなどの世話役）を募っておりますので、ご希望の方はご連絡をお待ちしています。

〒150 東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育会館内
（財）日本ハンドボール協会賛助会
TEL（03）481-2361（代）

▶昭和59年度会員

◎法人会員（順不同、敬称略）

㈱三陽商会、中村荷役運輸㈱、㈱三景、ジャスコ㈱、大同特殊鋼㈱、ブラザー工業㈱、大崎電気工業㈱、日新製鋼㈱、㈱日立制作所栃木工場、タチカラ㈱、立石電気㈱、大田印刷㈱、日鉄建材工業㈱、湧永製薬㈱、新日本製鉄㈱、日本ビクター㈱

以上16社

◎個人会員（順不同、敬称略）

（北海道）武山修、藤本強、（青森）渡辺匡、（山形）設楽章子、（茨城）大西武三、阿部二郎、富永劭、柏崎茂、入江信太郎、住谷稔、山田利美、大村久、大川洋司、幡谷祐一、鈴木孝八郎、（栃木）滝沢武、渡辺慶寿、（群馬）伊崎克巳、小金沢岩男、村野嘉孝、（埼玉）岡村千春、川上整司、鹿沼秀樹、境井秀三、平田佳英、鴻巣高ハンドボール部、（千葉）村瀬好孝、田村栄一、（東京）杉山茂、蒲生功、山本一枝、竹内史衛、黒田富郎武田喜三、平岡秀雄、中沢重夫、滝口三郎、岡前義春、安藤純光、筑波大附属高校、田中有三、青山俊介、加藤裕策、小野光、野中耕一、山岸信久、坂本吉弘、高松正司、高坂盛彦、山本佐知子、大野金一、武蔵村山東高校、高田日呂美、都築真弓、松橋繁春、三鴨博、青木俊英、福田誠、荒川清美、和田幸恵、斉藤英四郎、原信雄、北均、（神奈川）菊池源、塩谷浩、北川勇喜、五島孝彦、横地正厚、石川清雷、臼井鉄久、上林正明、植村繁、村松誠、（山梨）植野保、斉藤実、鶴田久、清水正、古屋正、（富山）高木一義、嶋田新太郎、旅逸郎、中田貞夫、徳前啓人、鍋島遼一、角勉、桶家寛、高田義一、山口吉弘、金原至、（石川）レンダスポーツ、（福井）竹野秀輝、長谷川勝、（静岡）鈴木光明、片瀬喜代次、（愛知）早川弘三、佐々木義夫、木下浩次、田中滋章、松瀬久美、近藤仁江、寺沢忠美、林達夫、佐藤勝利、梅村忠雄、伊藤和夫、浅野克彦、本田晃一、中島由貴、（三重）矢田雅人、田木信一、小川賢治、（岐阜）曽我順一、（滋賀）前川和三、（京都）三浦敏弘、（大阪）福本祐子、村田弘、西沢恭二、山田稔、山田計、望月伸三郎、（兵庫）坂本敏雄、佐久間勝、新井節男、（和歌山）山田進、丸善石油㈱下津、（鳥取）森田昌子、松原紀機、（岡山）黒住宗晴、近藤正次、藤井俊朗、熊本睦夫、（広島）正畠明雄、結城政憲、山本伸二、（山口）近間忠一、柳井文治、藤田信義、大野浩光、（香川）楠原敏明、（愛媛）山崎幸夫、河本武夫、高橋満年、越智武、（高知）苅山俊樹、高知大女子ハンドボール部、（福岡）加賀磨佐治、小袋是郎、古賀信男、日野博、緒方千穂、桐明正、（佐賀）久保田秀光、（熊本）神原秀明、（大分）脇屋長可、藤沢裕、一万田尚登、（沖縄）比嘉和直、

計157名

▶昭和60年度会員

◎特別個人会員

斎藤英四郎、（日本協会・東京都）荒川清美、武田喜三、大野金一（同）、武内史衛（日本協会公認会計士）、阿部二郎、（日本協会・茨城県）、黒田富郎、（日本協会・日野市）、村田弘、（日本協会・堺市）、柳井文治（日本協会・下松市）、中沢重夫（日本協会・東京都）、幸村稔（名古屋市）、木下浩次（名古屋市）、大西武三（日本協会・茨城県）

※昭和60年1月から会員証が新しくなりました。

スポーツが好き。汗が好き。

笑顔があります。涙があります。
躍動があります。記録への挑戦があります。
チームプレイの和があります。
からだを動かしていると
人生の大切なものがたくさん見えてきます。
新日鉄は、スポーツを通し
心身を鍛える皆様に声援をおくります。

新日本製鐵

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二三七号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和六十年一月二十五日 印刷
昭和六十年二月 一 日 発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 (481)二三六一
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 大野金一
定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)